

平成16年度  
児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ

「場に応じた適切な判断力を育てるための  
指導・援助の在り方」

- 加害者にも被害者にもさせないために -

栃木県教育委員会

## はじめに

本年6月1日の長崎県における6年生児童による同級生殺傷事件は、全国的に大きな衝撃をもたらすとともに、とりわけ児童を子に持つ保護者や学校教育に携わる者に、様々な視点から深い波紋を投じました。当該児童の現実感覚の希薄さや前思春期におけるグループ内の対人関係の変容、子どもたちの生活や成長への情報機器のかかわりなど、この事件の背景を考えると、これまでの一般的な子ども理解では把握しきれない状況が進んでいることを実感させられる事件であります。

さらに、7月には富山県で高校1年生が見ず知らずの人を刃物で刺し、殺人未遂で逮捕されるという事件も起きました。「誰でもよかった」と供述した女子生徒からは、いのちに対する畏敬や他者感覚の完全な喪失を感じます。

これらの事件を個別的な一過性の出来事としてとらえることなく、現代の子どもたちに潜む心の問題を十分に踏まえた上で、調和のとれた発達を支えるための教育を、幼稚園・保育所の段階から家庭と連携しながら進めていくことが求められていると言えます。

これまでの児童・生徒指導は、反社会的な行為や非社会的な行為を行う児童生徒に対する是正指導、あるいは予防指導という対症療法的な側面が強調されていたように感じています。もちろん問題行動にかかわる指導は当該児童生徒の健全な成長を支えるという観点から必要であることは言うまでもありません。しかしながら、先のような事件を考えると、例えば、「我慢する態度を身に付けさせるためには」、「自分の気持ちを整理し的確に相手に伝える力を伸ばすためには」、「自己理解を深め適切に集団にかかわっていく資質を高めるためには」などの目標をきちんと設定し、すべての児童生徒を対象として具体的な指導・援助を計画的、意図的に展開するなど、あらためて児童・生徒指導の基本に立ち返ってみることも必要と考えます。

本委員会により、平成14年度から取り組んできた発達課題の達成を目指した児童・生徒指導について、今年度は「加害者にも被害者にもさせないための適切な判断力」という観点から御協議をお願いいたしました。奥行きのあるテーマに対して、委員の皆様には各専門分野からの貴重な御意見を頂戴し、各学校が児童・生徒指導を展開する上での明確な目標たり得る資料がまとまったと考えております。

橘川委員長をはじめ委員の皆様には心から感謝申し上げます。

平成16年10月

栃木県教育委員会教育長

田 嶋 進

# 目 次

## はじめに

1	協議のねらい	1
2	基本的な考え方	2
(1)	本県における加害・被害の状況	2
(2)	自立を遂げていくうえでの困難さ	4
(3)	発達上の危機をもたらすもの	4
(4)	加害者・被害者にさせないために	6
ア	加害者・被害者になってしまった児童生徒の傾向	6
イ	加害者・被害者についての考え方	7
ウ	児童生徒の判断力育成の重要性	8
エ	判断力を育てるもの - キーワードについて -	8
3	発達課題を踏まえた判断力の育成	10
(1)	学校等で取り組むべきこと	10
ア	発達課題とその活用について	10
イ	発達課題と具体的な取組例	12
ウ	発達課題の達成度の確認と指導・援助	18
(ア)	発達課題の活用により児童生徒の自己理解を深める	18
	「シートA：小学校高学年児童、中・高等学校生徒用」について	
(イ)	発達課題の活用による学級などの集団及び個々の児童生徒理解	18
	「シートB：教員用」について	
(ウ)	発達課題の活用による指導・援助	19
	「シートC：教員用個票」について	
	・シートA - 小学校高学年児童、中・高等学校生徒用	20
	・シートB - 教員用	23
	・シートC - 教員用個票	29
(2)	学校から家庭への働きかけの観点とねらい	30
4	平成16年度児童・生徒指導推進委員会委員	34
	これまでの主な指導資料等	35

## 1 協議のねらい

協議題：場に応じた適切な判断力を育てるための指導・援助の在り方

- 加害者にも被害者にもさせないために -

児童生徒が加害者となる問題行動等や被害者になってしまう事件・事故等の背景には、社会環境の急激な変化や社会全体の倫理観の低下など大人の問題によるところも多いが、児童生徒自身の知識・技能の不足による現状認識の不十分さや、興味・好奇心などが先行した結果を考えない安易な行動などが原因となっている場合もあるように考えられる。

児童・生徒指導の観点から考えれば、事件・事故の加害者や被害者となることは、一般的にその児童生徒が本来遂げるべき調和のとれた発達を阻害し、将来の社会的な自立の方向性を歪めたり妨げたりする発達上の危機ととらえることができよう。

児童生徒が、さまざまな事件・事故の加害者にも被害者にもなることなくよりよい発達を遂げるためには、学校と家庭、地域社会が共に「育てる」意識を高めるとともに、犯罪等から「守る」ための行動連携を進めていくことが必要であるが、何より児童生徒自身の考える力や判断力を高め、自己のよりよい成長を目指す態度を身に付けさせ、発達を阻害する事態を回避するための力を育成していくことが教育に求められている今日的な課題であると言える。

このようなことから、本委員会では、事件・事故の加害者にも被害者にもさせないという観点から、児童生徒の行動選択の基となる考え方や判断力を養うために身に付けさせたい態度や育てたい資質・能力を、幼児期から高等学校期の発達の特徴を踏まえながら明らかにするとともに、幼稚園・保育所、各学校を中心とした取組の充実を図るための具体的な方法を明らかにすることを協議のねらいとした。

## 2 基本的な考え方

今日、教員や保護者の目が届きにくいところで児童生徒が加害者や被害者となる事件・事故の発生が増加しており、全国的には殺人、誘拐、薬物乱用、集団暴行など極めて緊急性の高い事件・事故も起きている。

ここでは、本県における少年事件の加害、被害の状況を確認し、現在の子どもの非行・問題行動の背景にあるものや発達上の危機をもたらすものについて考察するとともに、事例をもとに加害者・被害者になってしまった児童生徒の傾向を例示した。

また、これらを踏まえながら、児童生徒の判断力育成の重要性について整理し、委員会における協議内容をもとに判断力を育てるために必要な資質・能力を6つのキーワードとして示した。

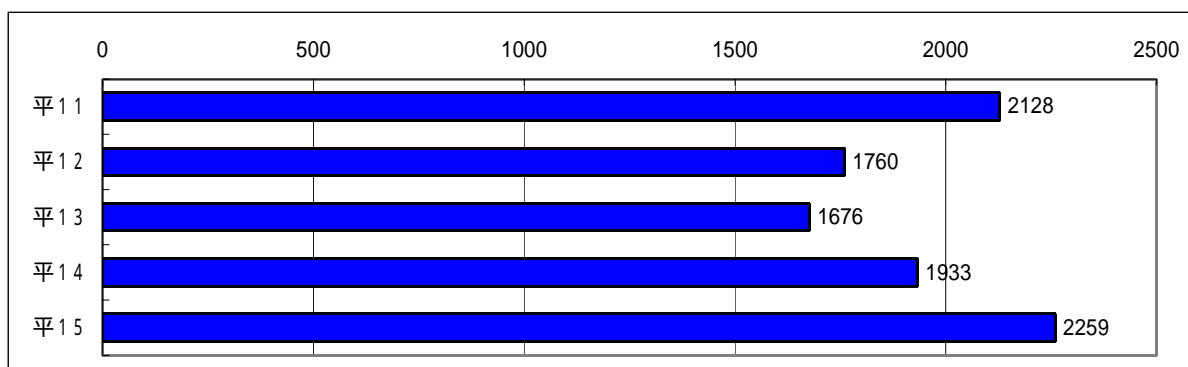
### (1) 本県における加害・被害の状況

「平成15年 少年非行」(栃木県警察本部・栃木県防犯協会)より作成

(「少年」: 20歳未満の男女)

#### ア 警察に検挙補導された少年の数の推移

区 分	平 1 1	平 1 2	平 1 3	平 1 4	平 1 5
検挙補導人員	2,128	1,760	1,676	1,933	2,259



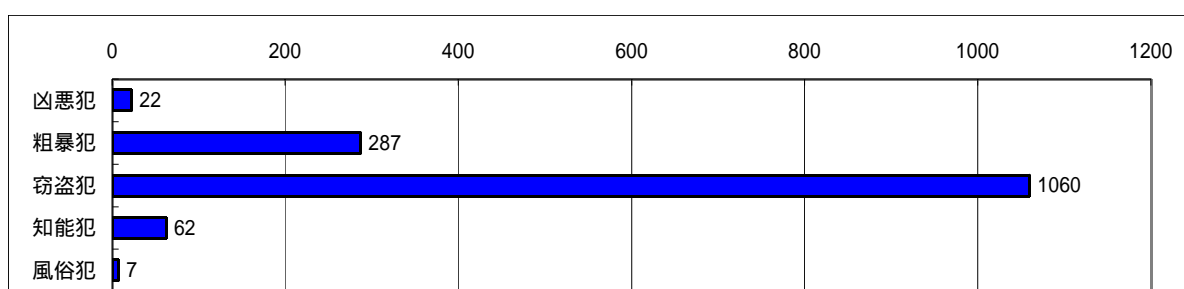
触法少年(14歳未満で刑罰法令に触れる行為をした少年)を含む。

上記2,259名のうち刑法犯少年は2,190人。

触法少年を除いた刑法犯少年は2,059人であり、これは同年齢層(14~19歳)の人口1,000人当たり14.7人となる(同成人1.9人の約8倍)。

#### イ 刑法犯少年の罪種状況

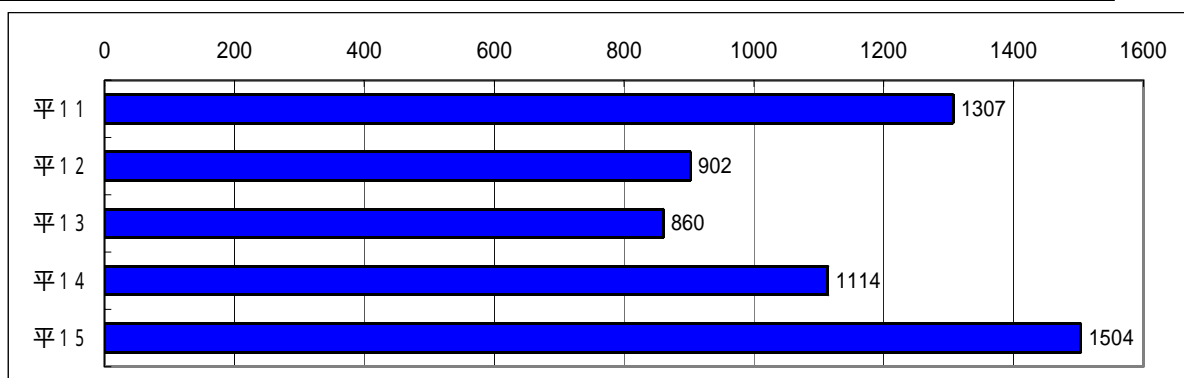
罪 種	凶悪犯	粗暴犯	窃盗犯	知能犯	風俗犯
検挙補導人員	22	287	1,060	62	7



窃盗犯の割合が全体の48.4%を占める。

### ウ 初発型非行の推移

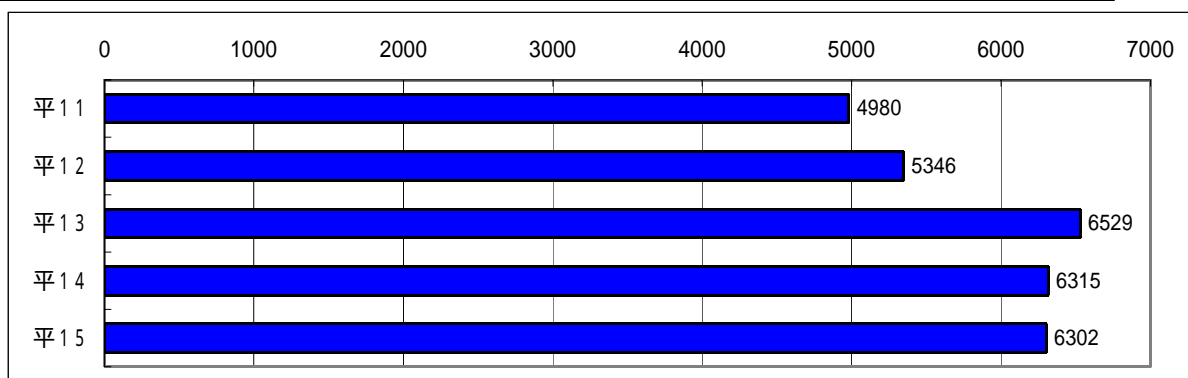
区 分	平 1 1	平 1 2	平 1 3	平 1 4	平 1 5
検挙補導人員	1,307	902	860	1,114	1,504



初発型非行：万引き、自転車・オートバイ盗及び占有離脱物横領など手段が容易で、動機が単純であることを特徴とする非行形態

### エ 刑法犯被害少年の状況

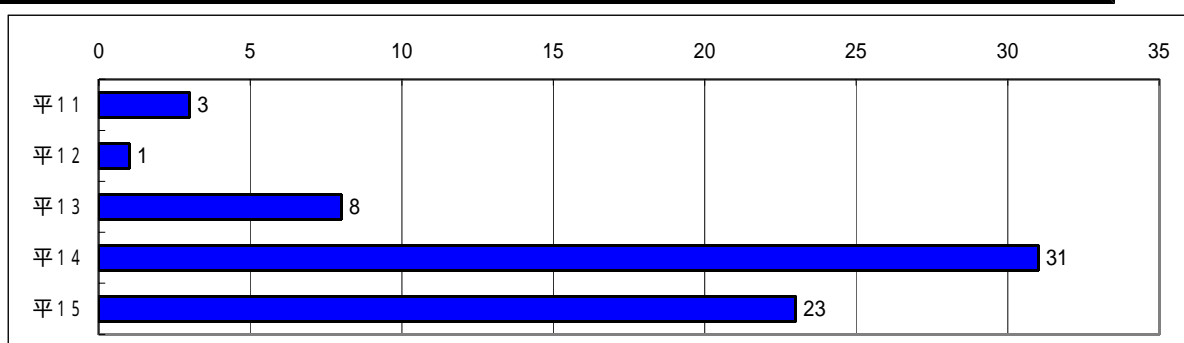
区 分	平 1 1	平 1 2	平 1 3	平 1 4	平 1 5
被害少年数	4,980	5,346	6,529	6,315	6,302



刑法犯被害者総数の約2割が少年。

### オ 児童買春、ポルノ禁止法被害少年の状況

区 分	平 1 1	平 1 2	平 1 3	平 1 4	平 1 5
被害少年数	3	1	8	31	23



被害少年はすべて女子。

これらデータは警察に認知された数値であり、いじめや万引き、学校内における暴力行為、グループ内でのトラブルなど、ここには表れない加害、被害事例も多いと考えられる。

## (2) 自立を遂げていくうえでの困難さ

今日の子どもたちが示す非行・問題行動等は、基本的に彼らが人間的自立を遂げていく上での困難さの表現であるととらえることができる。その背景にはいくつかの問題が存在している。

その主要なものの第一として、今日の子どもたちが過去の発達段階において様々な発達上の負因、弱点や未熟さを抱え込んだまま成長してきているという問題がある。さらに、今日の社会的条件のもとで、多くの子どもたちが将来に向けての自分の生き方や自己形成モデル、目標を見いだしていくことが困難になっているという問題を指摘できる。これらは、優れて教育目標の捉え方や大人の生き方、大人の子どもたちへの期待の問題にかかわる大きな課題である。

子どもたちを取り巻く様々な発達上の危機を明らかにしながら、子どもたちの将来の社会的な自立という教育の本来的な目的を踏み外すことなく問題点を捉え、適時・適切な指導・援助を行っていくことが強く求められていると言える。

## (3) 発達上の危機をもたらすもの

子どもたちは、乳児期から様々な発達段階を経ながら成長するが、その背景には、教育やしつけなど大人による意図的な働きかけと社会全体の倫理観や風潮など大人社会が無意識的に与える影響とがあると考えられる。

特に、後者については、例えば、日常的な生活の中で接する大人の生き方や属する集団の在り方、情報、偶然遭遇する出来事など、子どもたちにとっては学ぶ意識がないままに身に付けていく価値観や習慣化される行動につながっていくものであるだけに、その自己形成に与える影響は大きい。

学校等における教育の中で、児童生徒理解を深めながら望ましい集団の育成と個に応じた指導・援助を充実させるためには、このような背景から来る負の影響を発達上の危機もたらすものとして踏まえておく必要がある。

このことについて、今日的な問題として特に顕著と思われることは次のように考えられる。

### ア 大人の意識や生育環境の変化

子どもは、多くの大人とかかわることにより社会性の基盤を形成していくが、核家族化や地域共同体の在り方の変化などにより、特に大切な幼児期を中心として親以外の大人とかかわる場や経験が減少している。そのため、直接的な体験として幅広く社会のモラルや価値観に接する機会が減少している。さらに、子どもは生き方のモデルとして大人を意識しつつ成長するが、かかわる大人の減少により幅広い生き方の可能性を見だし得ない状況も考えられる。

また、いわゆる総中流意識による大人社会の横並び感覚は、子どもたちに他者との違いを不安として受け止める心性を助長する要因となっている。そのため、属する集団に適切なかかわりを持ちながら個性を発揮するという自我が育ちにくくなっている状況が見られる。このことは、例えば、高校生の服装や持ち物に象徴される行動様式の同一化など、他者や集団と同じであることにより安心を得るという傾向を生みだしていると考えられる。

さらに、例えば、万引きをしてもその法律的な意味や相手の迷惑を考慮することができない、あるいは、授業中や集会時に平然と私語を交わすなど、規範意識や他者感覚の低下として指摘される今日的な負の行動が見られる。これらは「公」より「私」を重視する今日的な社会風潮による大人自身の変化に応じて、育児段階から「私」を中心に育てられているため、「公」に対する感覚が育ちにくい状況の反映ととらえることもできる。

加えて、児童虐待や子どもを被害者とする大人の犯罪の増加、モノや金銭の豊かさへの価値観の偏り、子育てより自分の楽しみの優先、深夜徘徊や飲酒、喫煙などを安易に見過ごす風潮、大人と子どもの境界の曖昧化など、大人の価値観や社会の有り様が、子どもたちの調和のとれた発達を阻害する要因となっている場合もある。

## イ 情報社会

携帯電話やパソコンの普及と所持の低年齢化、テレビの深夜放送枠の拡大や各種情報雑誌等の多種化などにより、大人の関知しない部分で子どもたちが受け取る情報の量が大きく増加し、その内容や質も多様化している。さらに、児童生徒の行動の範囲や時間の拡大なども重なり、児童生徒がかかわる情報の内容を大人がすべて知り得ることは不可能に近い。

今年6月の佐世保の事件では、インターネットによるメールやチャットなどが、児童生徒の発達や価値観の形成に影響を及ぼしていることが様々な角度から指摘された。直接的な会話や行動を介さなくとも成立してしまう人間関係の危うさ、現実と仮想の境界が曖昧なままに形成される他者とのかわりの問題など、大人にとっては便利なツールが子どもたちの発達にとっては危険な状況をもたらしている場合もある。

## ウ 遊びの変化

幼児、児童期は遊びを通して身に付けるものが多いが、今の子どもたちは、大人が準備した条件や環境の中で遊ぶことが中心であるため、苦労しながら子どもたち自身が遊びを創造したり、仲間同士で考えたり工夫したりして困難を克服する経験が少なくなった。特に、児童期における異年齢集団による子どもだけの遊び空間の消滅は、児童期のみならずその後の発達に関して、対人関係やコミュニケーションスキルなど様々な部分で負の要因となっている。

また、メディアの発達、テレビゲーム等の影響により、子どもたちの遊びの内容や遊びを通して身に付けるものも変化した。例えば、今日的な遊びを通して充実感や達成感が得られたとしても、そこからは真の自尊感情や人間関係を調整する力は育たない。テレビゲームによる疑似体験は、他者との距離感や他者の痛み、喜びに寄り添う共感性、さらに自然の中で遊ぶことにより身に付く危険に対する直感力など、体験的に身に付けなければならない能力を低下させていると言える。

さらに、少子化による保護者の意識の変化により、「かわいそう」「危ないから」「～はダメ」といった言葉が子どもの行動に先回りし、本来、子どもたちが直接的な体験を通して身に付けていくべき命に対する畏敬や五感の感受性、対人感覚などの大切な心性を単なる教えられた知識としてしまっている状況もある。



(4) 加害者・被害者にさせないために

本委員会が目指したのは、具体的な事件・事故場面での対処法を明らかにすることではなく、「1 協議のねらい」にもあるように、適切な判断、行動選択にかかわる基本的な態度や資質・能力の育成に係る指導・援助の充実である。

ア 加害者・被害者になってしまった児童生徒の傾向

事件・事故の加害者・被害者になってしまった児童生徒の傾向や気質として、協議の中で各委員から次のようなことが例示された。

言葉で自分の考えや感情を整理したり説明したりすることができない。そのため、問題行動や非行の動機を聞いても「別に」「むかついたから」「欲しかったから」「みんながやってるから」と言うだけで、自分の気持ちをきちんと説明できない。また、自分がして欲しくないこと、嫌なことを相手に伝えることができない。

語彙力が乏しく、考えを組み立てたり理解を深めたりすることが不得手なため、言葉によって思考を深めることができない。そのため説諭の効果が上がらないことが多い。

言葉以前の感じる力が育っていない。

父母から愛されている、信頼されているという意識が薄く、自分の居場所を家庭の外に求める。さらに、学校不適応が重なれば、居場所は不良グループや暴走族ということになる。

他者との共感性に乏しく自己中心的で、「みんなで楽しく」が理解できなかったり、他者の喜びや悲しみ、肉体的な苦痛が分からなかったりする。

将来の夢や希望が持てず、自己イメージが暗い。自尊感情が低くなげやりで、「どうせ俺なんか」という言葉をよく聞く。

思考が単純、短絡的で、自分の行為の結果を予想しないで行動してしまう。あるいは、まったく予想できない。

加害行為や問題行動について、なぜ悪いかを考えたり説明したりできない。

集団の中での自分の立場や役割が理解できず、周囲との適切な人間関係が結べない。

自己認識が弱く、甘えや依存が見られ、自分のわがままを認知できない。また、自己の加害行為についても、加害意識が希薄である。同様に被害にあっても被害意識が弱い。

集団の中で周囲と同ー行動を取ろうとしなかったり取れなかったりすることが、被害の原因となっていることがある。

無気力で何に対しても意欲が低い。我慢することが苦手で、自己抑制が利かない。

欠乏やつまずき、失敗の経験不足により、我慢する力や自ら工夫する態度が身に付いていない。

規範意識が著しく低く、社会的な常識やルール、慣習などに沿った行動が取れない。そのため、逸脱行動についての許容度が大きく善悪の分別がよくできない。

## イ 加害者・被害者についての考え方

これらの例示からは、加害者・被害者の傾向や気質には共通するものも多いことが分かる。

協議の中でも、例えば、

- ・暴力行為の加害者には暴力被害の経験者が多いこと
- ・いじめの被害と加害は紙一重の場合もあり、同時に被害と加害を経験している事例もあること
- ・いじめの「傍観者」は加害者でも被害者でもないが事態を助長したり正当化したりしてしまうこと
- ・表現力や共感性の不足は加害、被害のいずれの要因ともなること
- ・集団行動への不適應により加害・被害にかかわる問題行動が起きたりすること

などが意見として出された。

また、窃盗を行った生徒が、その事実を知った別の生徒から恐喝を受けたという加害者が被害者になってしまった事例、交通ルールを守ることが事故の加害者にも被害者にもならないための基本であることなど、行為の結果としてとらえるならば加害・被害と両極端な現象も、行為の元にある態度や資質・能力の部分までさかのぼって考えるならば同質的な部分が多い場合もある。

つまり、加害者になる、あるいは被害者になるということは、不可避的な事件・事故に巻き込まれる場合を別として、自己の判断や行動選択を左右する態度や知識・技能、資質・能力にかかわる部分も大きいということになる。

### 具体例（「平成15年 少年非行」より作成）

16歳の高校1年男子生徒を公園に呼び出し、「暴走族グループのリーダーにあいさつをなせしなかった」などと言いがかりをつけ、殴る蹴るの暴行を加え、あごの骨を折るなどの重傷を負わせ、さらに「5万円用意しろ」と現金を要求した16歳の少年を傷害と恐喝未遂で逮捕。

#### 〔視 点〕

- ・「呼び出し」を受けたときに公園に行ってしまう以外の判断、行動の選択肢はなかったか。
- ・恐喝事例などでは、場合によっては、加害者少年が「リーダー」などから強要を受けているなど、加害者が被害者としての側面を持つような場合もある。

このような事例においても、加害者・被害者双方に、行為の結果を予想する力が十分に備わっていたならば、適切な判断に基づいた別な行動選択が可能であったはずである。

ただ、加害・被害の事例を考える上で注意すべきことは、加害者的な態度は集団とのかかわりの中で生まれるということである。このことについては、委員会協議の中でも「非行は集団から生まれる。」という経験に基づく意見が出された。したがって、加害者にさせないための適切な判断力を身に付けさせるための具体的な方法には、望ましい集団の育成、集団とのかかわりを踏まえた個の育成という観点か

らの取組が必要となる。

本資料「3-(1)-イ 発達課題と具体的な活動例」では、このような視点も踏まえて具体的な例示を行った。

#### ウ 児童生徒の判断力育成の重要性

幼児・児童生徒が加害者や被害者になってしまう要因は、学校や家庭、登下校途次や下校後及び休日の生活空間、あるいは親子関係や友人関係、情報とのかかわりなど、あらゆる場と媒体を通じたところに潜んでいると考えられる。

したがって、その一つ一つに個別に対処法を講じて対応していくことは困難であることから、児童生徒がみずから場に応じて考え判断し、適切な行動を選択・決定することにより、発達上の危機をもたらすものを克服できる力を育成し、加害者にも被害者にもなることがないよう、幼児・児童生徒の発達段階に応じて家庭、学校が中心となりながら取り組んでいくことが強く求められる。

昨今の事件・事故の状況から、幼児期や学童期など発達が極めて限定的な時期においては、特に被害者となることがないよう周囲の大人による見守りや安全管理への十分な配慮が必要であることは言うまでもない。しかし、いつも大人によって管理され守られるということでは、子どもたち自身の判断力にかかわる態度、資質・能力が十分には身に付かない。発達段階に応じた適切な働きかけが必要と言える。

#### エ 判断力を育てるもの

児童生徒が現在及び将来にわたって事件・事故の加害者にも被害者にもならないための適切な判断力を育てるため、委員会の協議内容を踏まえて、次の6項目を態度や資質・能力のキーワードとして設定した。

#### 【表 現】

言葉によって自己の感情を整理したり、考えを深めたりできることや、自己の意見、意思、感情、気分などを適切な態度や言葉により他者に伝える力、さらに、相手が伝えたいことを理解しようとする態度や力などのコミュニケーションスキル。

#### 【共 感】

他者の経験する感情や心的状態、意見などを、自分の体験として同じように感じたり理解したりすることや自己の権利や自由と同様に他者の権利、自由を尊重する態度など、相手の立場に立って考えたり感じたりしようとする態度や能力。

#### 【想 像】

自己の行為の意味や別の選択をした場合の結果、あるいは実際には経験していないことや目に見えないことを頭の中で考えたり、自己の適性や可能性、将来の姿などについて思いを巡らすなど、時間的、空間的なシミュレーションができる力。

【適 応】

自己の所属する集団（家庭、学校、学級、友人グループ、地域社会等）の中で自己の生き方を見だし、自己の能力を發揮しながら学習や生活ができるようになること。さらに、個人としての問題解決能力や集団のよりよい変容のための積極的な態度などを含む。

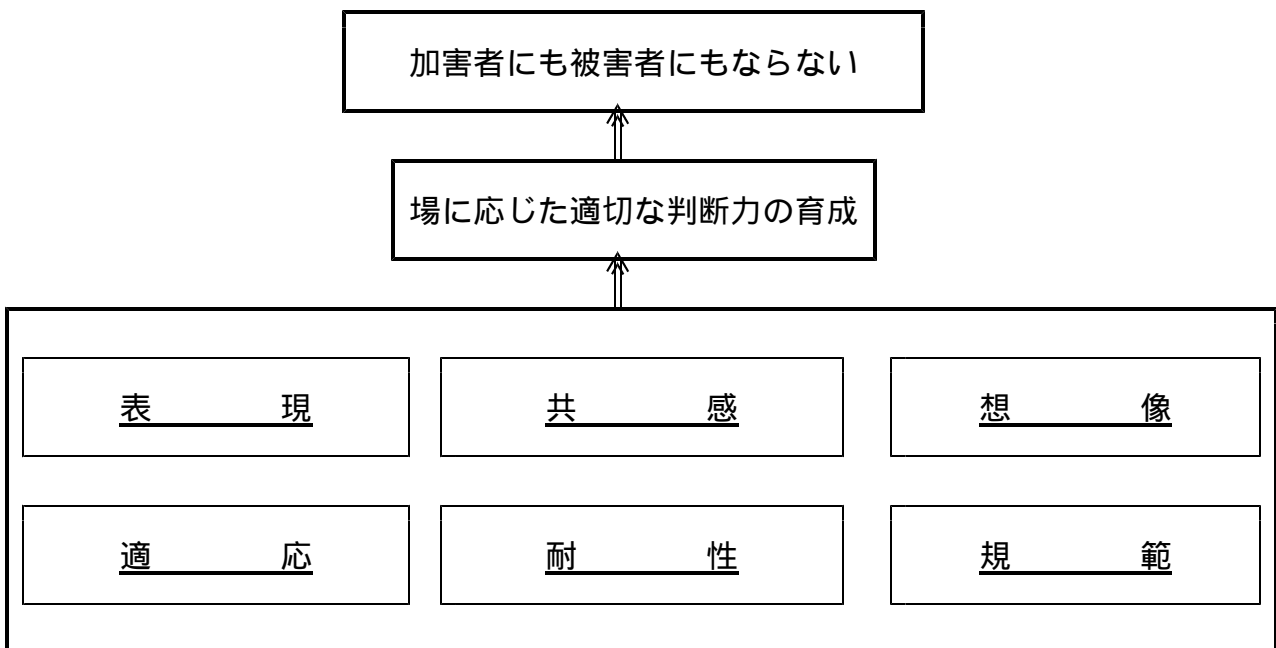
その中には、自己の存在を肯定的に考えられることや自分自身の理解、集団における自己の立場や役割の自覚などの自己適応、自己を取り巻く環境の理解や集団内での人間関係づくり、他者の立場や役割の理解と適切な対応、集団の目的を理解し協力や働きかけができることなどの他者適応や集団適応が考えられる。

【耐 性】

自己の為すべきことにねばり強く取り組む態度や我慢、忍耐などを伴いつつ行動できる姿勢、自己の欲求と集団の目的を調整できることなど、欲求不満やストレスに耐える力。

【規 範】

自己の行動選択や善悪の判断基準として法律的知識や社会規範が身に付いていることや自己の属する集団の秩序を尊重する態度、自己の行為に伴う責任の自覚や権利と義務に関する正しい理解など、集団や社会の中のルール、約束事を守る意識。



### 3 発達課題を踏まえた判断力の育成

ここでは、委員会の協議を踏まえ、発達課題やその活用についての考え方や方法を明らかにするとともに、幼児期から高等学校期までを6つの発達段階に分類し、それぞれの発達段階における子どもたちの特徴と指導上の留意点及び6つのキーワードで括られる発達課題の主なものを提示した。併せて、その発達課題を達成するために効果的と考えられる活動例も提示した。また、具体的な指導場面を想定して、目的、用途別の3種のチェックシートを例示した。

さらに、幼児、児童生徒への指導・援助は学校だけで行い得るものではないことから、保護者に対する働きかけの観点と期待される効果について、発達課題の視点から示した。

#### (1) 学校等で取り組むべきこと

##### ア 発達課題とその活用について

##### (ア) 発達課題について

子どもの発達には乳幼児期から青年期まで連続的なものであるため、個々の児童生徒が調和のとれた発達を遂げるためには、発達の各時期に達成することが期待される課題、いわゆる「発達課題」を十分に身に付けさせる必要がある。

発達課題を活用し、「何を、いつ、どのような活動を通して身に付けさせるか」を明らかにすることにより、目標に準拠した指導・援助が可能となるとともに、「～が身に付いたか、～ができるようになったか」という視点から児童・生徒指導の評価が容易になる。

発達課題は、幼・保、小・中・高等学校における指導・援助の系統性、一貫性の根拠ともなるものであり、学年や学校種の進行とともに発展的な指導・援助を可能とするものである。また、個々の幼児、児童生徒に着目した異校種間連携の明確な視点ともなり得る。

発達課題の視点から個々の児童生徒、さらに学級などの集団に欠けている態度や資質・能力を明らかにすることにより、児童生徒理解、集団理解を具体的なものとすることができる。また、チェックシートとして児童生徒自身に活用させることにより、自己理解を深めさせることができる。

本委員会では、児童生徒の将来の社会的な自立や現在の自己実現のための適切な判断力を育てるための具体的な発達課題を、加害者や被害者として事件・事故に巻き込まれることがないようにという視点から、6つのキーワードに分類し、その課題を達成するための指導・援助のあり方を例示した。

#### (イ) 発達段階の分類について

発達段階については様々な考え方があるが、本委員会では、学校種等及び学習指導要領の分類を踏まえた。しかし、この分類は便宜的な意味合いも含むため、あまり固定的に考える必要はない。

例えば、「幼児期」は、小学校入学までの時期のことであるが、現実的な児童の個別性を重視すべきであり、幼児期の発達課題について、必要であれば小学校入学後に達成のための働きかけが行われることもあり得る。同様に、小学校中学年において低学年の発達課題達成のための活動もあり得る。以後の発達段階についても同様である。

#### (ウ) 活用方法

各学校においては、次の項目による具体的な活用が考えられる。

なお、「平成14年度児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ - 不登校の解消に向けた方策について」「平成15年度児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ - 暴力行為を予防するための方策について」により提示した発達課題や具体的な活動例なども併用することにより、各学校の実態に応じた取組が可能となる。

発達課題の視点から学校の教育目標や学年、学級の指導目標等の具体性、実効性を検証する。

発達課題により身に付けさせたい態度や育てたい資質・能力を明確化し、具体的な取組や幼児、児童生徒の活動を年間計画等に位置づける（＝目標を明確化した児童・生徒指導）。

個々の具体的な取組や活動、継続的な指導・援助の成果について、「何が身に付いたか」「何ができるようになったか」という視点から、個々の幼児、児童生徒や学年、学級などの集団を見直すことにより、児童・生徒指導の評価を行い改善を図る。

異校種間や保護者、地域との連携の視点として発達課題を活用する。

発達課題の視点から児童生徒自身の自己理解を促す。

- 「チェックシートA」の活用

発達課題の視点から個々の児童生徒理解を深める。

- 「チェックシートB」の活用

発達課題の視点から学級、友人グループなどの集団理解を深める。

- 「チェックシートB」の活用

チェックシートA・Bによる個々の児童生徒や学級などの集団理解に基づき、具体的な指導・援助の方法を検討し実施する。

- 「シートC」の活用

シートA・B・Cの活用については、P.18～P.19に詳述

イ 発達課題と具体的な取組例

《幼児期》

特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己中心の時期であり、一つの事柄に注意が集中し、それ以外のことを認知することが困難である。</li> <li>例) 道路の向こう側に親や友達を発見すると、車の往来に関係なく走り出す。</li> <li>自己とモデル(親やテレビのヒーローなど)を同一化し、非現実的な万能感を持つ。4歳頃から自他の区別が可能となる。</li> <li>欲求や興奮を自律的に抑制することが困難なため、突発的衝動的な行動をとることがある。</li> </ul>		
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>五感を働かせる遊びを通して発達を促す。</li> <li>生命のはかなさや死について、直接的な体験の中で触れさせていくことにより、命の大切さ、命への畏敬の念を体得させる。</li> <li>危険についての直接的な体験が不足すると予測する能力が育ちにくい。保護の下での「ひやり」「はっと」の体験を通して対処方法や結果を考える感覚を身に付けさせる。</li> </ul>		
項目	<p style="text-align: center;">発 達 課 題</p>		
表現	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>「嬉しい」「悲しい」「～が欲しい」「～したい」など、基本的な感情や欲求を言葉で表すことができる。</li> <li>場による定型的なあいさつができる。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>絵本や紙芝居、話を聞いたりする場を多く設定し、美しい言葉に多く触れさせる。</li> <li>幼児の話したい気持ちを大切に、話を聞くためのゆったりとした時間と場面を設定する。</li> <li>問いかけや言葉かけを多くして、受容的な態度で傾聴する機会を意図的に設ける。</li> <li>感情を適切な言葉で表現できるよう「悲しいのね」「とても嬉しいのね」と感情の名付けを行う。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「嬉しい」「悲しい」「～が欲しい」「～したい」など、基本的な感情や欲求を言葉で表すことができる。</li> <li>場による定型的なあいさつができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本や紙芝居、話を聞いたりする場を多く設定し、美しい言葉に多く触れさせる。</li> <li>幼児の話したい気持ちを大切に、話を聞くためのゆったりとした時間と場面を設定する。</li> <li>問いかけや言葉かけを多くして、受容的な態度で傾聴する機会を意図的に設ける。</li> <li>感情を適切な言葉で表現できるよう「悲しいのね」「とても嬉しいのね」と感情の名付けを行う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>「嬉しい」「悲しい」「～が欲しい」「～したい」など、基本的な感情や欲求を言葉で表すことができる。</li> <li>場による定型的なあいさつができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本や紙芝居、話を聞いたりする場を多く設定し、美しい言葉に多く触れさせる。</li> <li>幼児の話したい気持ちを大切に、話を聞くためのゆったりとした時間と場面を設定する。</li> <li>問いかけや言葉かけを多くして、受容的な態度で傾聴する機会を意図的に設ける。</li> <li>感情を適切な言葉で表現できるよう「悲しいのね」「とても嬉しいのね」と感情の名付けを行う。</li> </ul>		
共感	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>大人に甘えることができる。</li> <li>身近な人の喜びや悲しみを感じることができる。</li> <li>自然の美しさや生き物の動きに関心を持つことができる。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>触れ合いの時間、スキンシップの機会を多くする。</li> <li>絵本や紙芝居、視聴覚教材などを通して、登場人物の気持ちを考えさせる。</li> <li>人の話をしっかり聴く習慣を身に付けさせる。</li> <li>友だちのことについて話しをさせる。</li> <li>昆虫や小動物に触れる機会を多く設ける。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大人に甘えることができる。</li> <li>身近な人の喜びや悲しみを感じることができる。</li> <li>自然の美しさや生き物の動きに関心を持つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>触れ合いの時間、スキンシップの機会を多くする。</li> <li>絵本や紙芝居、視聴覚教材などを通して、登場人物の気持ちを考えさせる。</li> <li>人の話をしっかり聴く習慣を身に付けさせる。</li> <li>友だちのことについて話しをさせる。</li> <li>昆虫や小動物に触れる機会を多く設ける。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>大人に甘えることができる。</li> <li>身近な人の喜びや悲しみを感じることができる。</li> <li>自然の美しさや生き物の動きに関心を持つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>触れ合いの時間、スキンシップの機会を多くする。</li> <li>絵本や紙芝居、視聴覚教材などを通して、登場人物の気持ちを考えさせる。</li> <li>人の話をしっかり聴く習慣を身に付けさせる。</li> <li>友だちのことについて話しをさせる。</li> <li>昆虫や小動物に触れる機会を多く設ける。</li> </ul>		
想像	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な人やテレビキャラクターを模倣できる。</li> <li>読み聞かせや物語に対して心象を持つことができる。</li> <li>命や死が特別なものであることを感じることができる。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ごっこ遊び」で様々な人物(家族・テレビキャラクター等)を演じさせる。</li> <li>素話や絵本の読み聞かせを通して持ったイメージをふくらませる。</li> <li>音楽や絵画等芸術に接する機会を作る。</li> <li>空想による「お話作り」をさせる。</li> <li>生命が誕生する場面や近親者、昆虫、動物の死など、命にかかわる経験から遠ざけない。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な人やテレビキャラクターを模倣できる。</li> <li>読み聞かせや物語に対して心象を持つことができる。</li> <li>命や死が特別なものであることを感じることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ごっこ遊び」で様々な人物(家族・テレビキャラクター等)を演じさせる。</li> <li>素話や絵本の読み聞かせを通して持ったイメージをふくらませる。</li> <li>音楽や絵画等芸術に接する機会を作る。</li> <li>空想による「お話作り」をさせる。</li> <li>生命が誕生する場面や近親者、昆虫、動物の死など、命にかかわる経験から遠ざけない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な人やテレビキャラクターを模倣できる。</li> <li>読み聞かせや物語に対して心象を持つことができる。</li> <li>命や死が特別なものであることを感じることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ごっこ遊び」で様々な人物(家族・テレビキャラクター等)を演じさせる。</li> <li>素話や絵本の読み聞かせを通して持ったイメージをふくらませる。</li> <li>音楽や絵画等芸術に接する機会を作る。</li> <li>空想による「お話作り」をさせる。</li> <li>生命が誕生する場面や近親者、昆虫、動物の死など、命にかかわる経験から遠ざけない。</li> </ul>		
適応	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと一緒に(に)いる、(に)遊ぶことに喜びを感じられる。</li> <li>体を使った遊びを楽しむことができる。</li> <li>指示に従って、時間を守ることができる。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>遊びや共同作業を通じて達成感や喜びを体感させる。</li> <li>友だちとのいさかいは見守ることによって、他者とのつきあい方や距離感を学ばせる。</li> <li>自然の中での遊びを通じて五感を育てる機会を多く持つ。</li> <li>自分でできることには、必要以上に声をかけたり、口出ししたりしない。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと一緒に(に)いる、(に)遊ぶことに喜びを感じられる。</li> <li>体を使った遊びを楽しむことができる。</li> <li>指示に従って、時間を守ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びや共同作業を通じて達成感や喜びを体感させる。</li> <li>友だちとのいさかいは見守ることによって、他者とのつきあい方や距離感を学ばせる。</li> <li>自然の中での遊びを通じて五感を育てる機会を多く持つ。</li> <li>自分でできることには、必要以上に声をかけたり、口出ししたりしない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと一緒に(に)いる、(に)遊ぶことに喜びを感じられる。</li> <li>体を使った遊びを楽しむことができる。</li> <li>指示に従って、時間を守ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びや共同作業を通じて達成感や喜びを体感させる。</li> <li>友だちとのいさかいは見守ることによって、他者とのつきあい方や距離感を学ばせる。</li> <li>自然の中での遊びを通じて五感を育てる機会を多く持つ。</li> <li>自分でできることには、必要以上に声をかけたり、口出ししたりしない。</li> </ul>		
耐性	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>指示に従って我慢することができる。</li> <li>落ち着いて食事がとれる。</li> <li>欲求が満たされない場面もあることが分かる。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>目に見える形で目標を示し、無理のない指示をする。</li> <li>遊びの中で決まりを守る大切さを知らせていく。</li> <li>我慢したこと、指示通りにできたことに対し誉めるだけでなく感謝の言葉もかける。</li> <li>指導者が「待つ」ゆとりを持つ。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指示に従って我慢することができる。</li> <li>落ち着いて食事がとれる。</li> <li>欲求が満たされない場面もあることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目に見える形で目標を示し、無理のない指示をする。</li> <li>遊びの中で決まりを守る大切さを知らせていく。</li> <li>我慢したこと、指示通りにできたことに対し誉めるだけでなく感謝の言葉もかける。</li> <li>指導者が「待つ」ゆとりを持つ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>指示に従って我慢することができる。</li> <li>落ち着いて食事がとれる。</li> <li>欲求が満たされない場面もあることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目に見える形で目標を示し、無理のない指示をする。</li> <li>遊びの中で決まりを守る大切さを知らせていく。</li> <li>我慢したこと、指示通りにできたことに対し誉めるだけでなく感謝の言葉もかける。</li> <li>指導者が「待つ」ゆとりを持つ。</li> </ul>		
規範	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の物と人の物との区別ができる。</li> <li>言葉による禁止の指示に従える。</li> <li>順番を待つことができる。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>個々のマークを決め自他の物を分かりやすくする。</li> <li>禁止する事項に対しては、大人が常に一貫した態度で徹底させる。</li> <li>ルールのある遊びを通して大切さに気付かせる。</li> <li>分かりやすい場面で(信号機やバスの乗り降り等)待つ訓練をさせる。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の物と人の物との区別ができる。</li> <li>言葉による禁止の指示に従える。</li> <li>順番を待つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々のマークを決め自他の物を分かりやすくする。</li> <li>禁止する事項に対しては、大人が常に一貫した態度で徹底させる。</li> <li>ルールのある遊びを通して大切さに気付かせる。</li> <li>分かりやすい場面で(信号機やバスの乗り降り等)待つ訓練をさせる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の物と人の物との区別ができる。</li> <li>言葉による禁止の指示に従える。</li> <li>順番を待つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々のマークを決め自他の物を分かりやすくする。</li> <li>禁止する事項に対しては、大人が常に一貫した態度で徹底させる。</li> <li>ルールのある遊びを通して大切さに気付かせる。</li> <li>分かりやすい場面で(信号機やバスの乗り降り等)待つ訓練をさせる。</li> </ul>		

《小学校低学年》

特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己に対する他者の存在を感覚的に理解できるようになっており、言葉による相互交流も活発になる。</li> <li>親に強く依存する一方で、年長児童や教員をモデルとするなどしながら自己の行動を選択するようになる。</li> <li>家庭以外での行動範囲が広がり、好奇心が高まる。</li> </ul>	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の意図と他者の意図が異なる場合があることを体験的に学習させる中で、自他を区別する感覚や他者を尊重する態度を身に付けさせていく。</li> <li>特に、場面による公私の別や善悪の基準については、繰り返し指導・援助することを通じて集団の一員としての適切な態度をしっかりと身に付けさせる。</li> </ul>	
項目	発達課題	発達課題を達成するための具体的な活動例
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分からあいさつができる。</li> <li>言葉に対する関心を持つことができる。</li> <li>相手の言葉を理解しようと努めることができる。</li> <li>経験や想像の内容を他者に伝えようとするができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割り班によるあいさつ運動を継続的に実施する。</li> <li>読書を習慣化させ、「好きな言葉ノート」など言葉に多くかかわらせる。</li> <li>小集団活動などにより、考えを発言させる機会、発言を聴く機会を作る。</li> <li>自分の気持ちを短文に表す指導を行う。</li> </ul>
共感	<ul style="list-style-type: none"> <li>動植物に優しい心で接することができる。</li> <li>友だちに思いやりを持って接することや先生の手伝いなどができる。</li> <li>友だちの長所に気付くことができる。</li> <li>高齢者と楽しく交流できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科における動植物の飼育、栽培を通して生き物に対する優しい心を育てる。</li> <li>清掃や給食準備など共同作業を意図的に計画する。</li> <li>他者紹介などにより級友への関心を高めさせる。</li> <li>交流を通して、自分の存在が高齢者の元気づけなどに役立っていることに気付かせる。</li> </ul>
想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者のよい行いを模倣できる。</li> <li>遊びのルールを考えられる。</li> <li>命はかけがえのないものであることが体験を通じて理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>帰りの会で友だちのよいところを話し合わせる。</li> <li>よい行いを賞賛したり例示したりして、気づきを促し意欲付けをする。</li> <li>グループ遊びの中で誰もが楽しめるようなやり方を考えさせ、発表させる。</li> <li>生活科の観察・実験で昆虫や小動物を扱い、命は取り返しがつかないことを実感させる。</li> </ul>
適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団の一員として楽しく行動できる。</li> <li>自由な時間と拘束される時間を区別できる。</li> <li>得意な学習活動を意識できる。</li> <li>授業に楽しく参加できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ学習を多く取り入れ、協働による創作活動などを実施する。</li> <li>地域、育成会等の行事に参加させ、大人や年長者と交流する機会を作る。</li> <li>始業時刻を厳守させ授業中と休み時間の区別をきちんとつけさせる。</li> <li>学習活動への興味・関心を持続させる。</li> </ul>
耐性	<ul style="list-style-type: none"> <li>してはいけないことを我慢できる。</li> <li>好きなことに長い時間取り組むことができる。</li> <li>人の話を静かに聞くことができる。</li> <li>食べ物の好き嫌いを克服しようと努力できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>悪いことは悪いと身に付くまで繰り返し指導する。</li> <li>あまり苦勞せずにできる課題を繰り返し与え、努力と評価、賞賛を多く経験させる。</li> <li>嫌なことでも、最後までやり通す経験をさせる。</li> <li>一人で行う作業学習を取り入れ、次第にその作業時間を長くする。</li> <li>保護者と連絡を取りながら給食指導を行う。</li> </ul>
規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>約束や時間を守ることができる。</li> <li>集団遊びの中でルールを守れる。</li> <li>歩行、自転車に関する交通ルールを理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャイムや時計により、始業や終業の時刻に自分たちで気付くようにさせる。</li> <li>話し合いにより自分たちのルールを作らせる。</li> <li>ルールのある集団遊びをさせる。</li> <li>交通ルールを知識として計画的に教え、ロールプレイや視聴覚教材などにより安全と危険について学ばせる。</li> </ul>



《小学校中学年》

特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物事の原因と結果の間にある関係を理解する能力が発達し、自主性が強まる。</li> <li>・自己の生き方のモデルを探し始める時期であり、周囲の大人の行動から強く影響を受ける。</li> <li>・同性の仲間への同調や所属感の確認、好奇心の発達などから、あえて危険を冒す傾向がある。</li> </ul>	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達の個人差が大きい時期であり、学習面や生活面での能力や態度について個別的な児童理解と対応が必要である。特に、この時期の学習不適応は、その後の学校生活全般への不適応に発展する場合もある。</li> <li>・グループ化による友人関係の広がりが見られるが、人間関係の基本は親子関係にあるので、特に家庭との連携を強く図ることが求められる。</li> </ul>	
項目	発達課題	発達課題を達成するための具体的な活動例
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたことや考えたことを、言葉で伝えることができる。</li> <li>・場に応じた主体的なあいさつや適切な言葉づかいができる。</li> <li>・嫌なことを嫌と伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何でも話せる雰囲気のある学級経営に努めるとともに、小集団による話し合いの機会を多く作る。</li> <li>・縦割り班活動などで、あいさつや言葉づかいの指導など下級生の面倒を主体的に見させる。</li> <li>・ロールプレイにより自分の感情を伝える練習をさせる。</li> </ul>
共感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の悲しみや喜びを感じることができる。</li> <li>・生き方のモデルを探ることができる。</li> <li>・言葉や態度により相手が傷つくことがあることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰りの会でうれしかったこと、悲しかったことを発表させる。</li> <li>・「伝記」、「体験記」などを読ませて先人の生き方について読後に話し合いをさせる。</li> <li>・仲間のトラブルを全員で考えさせる。</li> <li>・学級活動等でいじめや悪口について話し合い、他人の気持ちについて考えさせる。</li> </ul>
想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の迷惑を感じることができる。</li> <li>・将来、何になりたいかを言うことができる。</li> <li>・前の失敗を行動に生かすことができる。</li> <li>・自分たちなりの遊びを考え出すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の言動を振り返るための時間を定期的に設ける。</li> <li>・総合的な学習の時間などを通して、様々な職業や大人の生き方について理解を深めさせる。</li> <li>・「1/2成人式(10歳)」などで将来の夢を自由に考えさせる。</li> <li>・地域の自然や文化財などに触れる機会を作る。</li> <li>・社会の出来事等について話し合いの機会を作る。</li> <li>・集団活動の時間に、活動のルールや方法を自分たちで主体的に工夫させる。</li> </ul>
適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己と他者の区別ができる。</li> <li>・意見の違う友人とも遊ぶことができる。</li> <li>・親や家庭から離れて、同性の友人集団で遊ぶことができる。</li> <li>・授業に意欲的に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものの貸し借り上のルールを決めさせる。</li> <li>・席替えやグループ編成の工夫などにより、多くの友人と接する機会を増やす。</li> <li>・子どもたちの学校外での様子を把握することや地域子ども会活動を重視することを通じて、地域つながりの集団活動を活発化させる。</li> <li>・教科学習に関するつまずきの早期発見に努め、個別対応を充実させる。</li> <li>・学習用具の準備や学習の目当ての理解などを確実に図りながら、授業にのぞむ態度を育てる。</li> </ul>
耐性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団行動の際に自己の欲求を抑制できる。</li> <li>・学級内での役割や宿題などにねばり強く取り組むことができる。</li> <li>・目標のために、したいことを我慢できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「全体のことが先、自分のことは後」という意識付けを徹底する。</li> <li>・係活動の内容を明確化し、工夫しながら楽しく活動できるよう援助する。</li> <li>・宿題を工夫し意欲が持続するようにする。</li> <li>・我慢を要する課題を与え、達成できたときには適切に評価、賞賛する。</li> </ul>
規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通ルールに従って行動できる。</li> <li>・集団のルールを守ろうとすることができる。</li> <li>・「したいこと」と「すべきこと」の違いが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全教室などを通じて体験的な理解を深める。</li> <li>・話し合いにより学級のルールを作らせる。</li> <li>・事例やロールプレイを用いて様々な状況の中でのべき行動の優先順位について考えさせる。</li> </ul>

《小学校高学年》

特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童によっては第二次性徴が見られることもあり、身体と心の発達のバランスが崩れる時期である。</li> <li>・対人感情が発達し社会性の基礎が形成される。他者の目に映る自己を意識し始めるとともに、様々な情報への好奇心が強くなる。</li> <li>・閉鎖的かつ濃密な友人関係を求めるため、友人から認められたいという欲求が強まる一方、仲間意識の崩れが怒りや憎悪に転化されやすい。</li> </ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係が友人を中心に展開される。大人の目に触れない行動が増加することから、きめ細かな児童理解が必要になる。</li> <li>・物事を論理的に考える力が徐々に備わってくる。発達の個別性が大きいいため、個に応じた丁寧な相談活動や作文指導により力を引き出す工夫が必要となる。</li> <li>・自他の区別の意識がよりよい自己形成に発展するよう、集団活動の中で成長していく自己を実感できるような工夫をする。</li> </ul>
項目	<p style="text-align: center;">発 達 課 題</p>
表現	<p style="text-align: center;">発達課題を達成するための具体的な活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の意見に対する自分の考えを言葉で表すことができる。</li> <li>・相手の立場を配慮しながら、怒りや不満を伝えることができる。</li> <li>・友だちに適切な声かけをすることができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループによる話し合いの機会を増やし、相手に理解されやすい伝え方の訓練をさせる。</li> <li>・ディベートや自己主張訓練により、多角的な考え方や効果的な伝え方を身に付けさせる。</li> <li>・語彙を豊かにするための読書活動を計画的に実施する。</li> </ul>
共感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の表情や言葉づかいから感情を推し量ることができる。</li> <li>・他者の良いところを誉めることができる。</li> <li>・親や教師などの願いを感じることができる。</li> <li>・年少者に対して、思いやりを持って接することができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイにより相手の気持ちを考える訓練をする。</li> <li>・作文学習などにより友人のよいところなどを表現させる。</li> <li>・朝の会や学級活動で教師や親の願いを紹介する。</li> <li>・自分の名の由来を調べさせる。</li> <li>・縦割り班活動の中での自分の行動を予め考えさせたり、振り返らせたりすることにより自己を客観化させる。</li> </ul>
想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の夢や希望を持つことができる。</li> <li>・自分の行動を振り返り改善すべきことを考えることができる。</li> <li>・命の大切さ、尊さを自分のこととして理解できる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞や雑誌などから活躍している大人の情報を提供するようにする。</li> <li>・新聞やテレビのニュース（事件）を題材に話し合いをさせ、加害者、被害者の心情を考えさせる。</li> <li>・家族とのかかわりを意識させながら小学校入学から現在までの自分史を作成させる。</li> <li>・自分までつながってきた命の連続性を考えさせる。</li> </ul>
適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所、短所を理解できる。</li> <li>・友人がいろいろな考えや感情を持っていることを理解できる。</li> <li>・集団の中での自分の立場、役割を理解した行動が取れる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私から見たA君」の作文や他者紹介などを実施し、他者や自己に対する理解を深めさせる。</li> <li>・文学作品やニュースなどの受け取り方について話し合いをさせ、様々な感受性や考え方があることを理解させる。</li> <li>・委員会活動や学級内の係活動への取組の自己評価などをさせる。</li> </ul>
耐性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団のために尽くすことができる。</li> <li>・為すべきことは一人ででも最後までやり通せる。</li> <li>・目標のために、したくないことでも粘り強く取り組むことができる。</li> <li>・上手いいかないことや失敗、できないことを受け止めることができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事で個の力に応じた役割を与える。</li> <li>・一人一係制によりすべての児童に役割意識と責任感を持たせる。</li> <li>・到達目標を細分化し、努力と達成感を数多く経験させる。</li> <li>・誰にでも得意と不得意、できることとできないことがあることを体育的行事や芸術的行事を通じて理解させる。</li> </ul>
規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年少者にルールを守らせるなど、年長者の立場や責任を踏まえて行動できる。</li> <li>・問題行動や非行に係る法律の存在を知ることができる。</li> <li>・社会的な慣習に沿った行動が取れる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校班や縦割り班でのリーダーとしての行動についてモデルを示し実行させる。</li> <li>・警察と連携し法律にかかわる知識を持たせる。</li> <li>・事件・事故の報道等を題材とし、法律に触れる行為について話し合いをさせ、教員が適切な説明を加える。</li> </ul>

《中学校》

特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期を迎え心身の変化が大きくなる時期であり、自分自身を「子どもを卒業した存在」と認識するようになる一方価値観が不安定であり、集団への同調的な行動をとる傾向が強い。</li> <li>・これまで身に付けてきた道徳的価値観や社会規範、常識的な考え方に故意に反発的な態度をとる者が見られる。</li> <li>・論理的な思考ができるようになる一方で、感受性が強くなり他者と自分の比較の中で自己を理解するような傾向が強くなる。</li> </ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的価値観や社会規範に反発する時期であり、規則を守ることを押しつけるなど指示的に指導するより、規則や規範の意義や望ましい生き方について考えさせるような指導が大切になる。</li> <li>・自己の行動の意味を考える習慣を身に付けさせるとともに、個々の場面や状況等について、特に義務と権利の観点を踏まえた論理的な把握ができる力を育てる。</li> <li>・具体的な場面を想定し、周囲への影響や結果を想定させることにより自己の行為を客観視できるような指導・援助を行う。</li> </ul>
項目	<p style="text-align: center;">発 達 課 題</p>
表現	<p>発達課題を達成するための具体的な活動例</p> <p>次のテーマでロールプレイなどを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手が話しやすい聞き方</li> <li>・意図が伝わりやすい話し方</li> <li>・柔らかい断り方と断固とした断り方</li> </ul>
共感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉によって自分の感情、相手の感情を説明することができる。</li> <li>・自分の考えと相手の考えを調整できる。</li> <li>・嫌なことを相手の立場を考慮しながらきちんと断ることができる。</li> </ul>
共感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者への優しさや思いやりの気持ちを持つことができる。</li> <li>・他者の心の痛みや苦しみに寄り添うことができる。</li> <li>・価値観の多様性に気付き友人の考えや行為を尊重できる。</li> <li>・同性の親友を持ち、悩みや苦悩を打ち明けることができる。</li> </ul>
想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園や保育所、高齢者との交流活動を実施する。</li> <li>・福祉体験（アイマスク、車椅子、点字・手話等）を実施する。</li> <li>・道徳資料やビデオ、文学作品等によって様々な心情や精一杯生きることのすばらしさに触れさせる。</li> <li>・同じテーマによる意見発表、ディベートなどを実施し、自己と他者の考え方や感じ方の違い、様々な悩みがあることに気付かせる。</li> </ul>
想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「高校生になったら」や「10年後の自分」などのテーマで作文を書かせ将来を意識させる。</li> <li>・職場体験プログラムを実施し、体験の中から自分の将来について考えさせる。</li> <li>・事件・事故の新聞記事や事例に数多く触れさせ、原因と結果について検証していく中で危険に対する知識や推量する力を身に付けさせる。</li> <li>・事例を通じて同世代の被害者の心情について、「自分だったら」「親友のA君だったら」という視点で考えさせる。</li> <li>・保健体育や道徳、特別活動などを通して、「性」や「生命」に関する理解を深めさせ、自分の命、他者の命に対する畏敬の念を育てる。</li> </ul>
適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の目的に沿って自己の役割を果たすことができる。</li> <li>・自分のよさや可能性を認識できる。</li> <li>・場面による公私の区別を踏まえた行動をとることができる。</li> </ul>
適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団と自己のかかわり、集団の中での自己の役割や立場について作文を通して客観視させる。</li> <li>・活躍が実感できる場を意図的に設定する。</li> <li>・学級活動、学年・学校行事を生徒主体で進めることにより当事者意識を持たせていく。</li> <li>・活動の内容によりリーダーとメンバーをバランスよく経験させる。</li> </ul>
耐性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものごとを最後までやり通すことができる。</li> <li>・場面や状況に応じて自分の気持ちや欲求をコントロールできる。</li> <li>・学習や人間関係、進路に関するストレスの処理ができる。</li> </ul>
耐性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動や係活動、部活動や奉仕活動などにより小さなストレスを乗り越える経験をさせ、自信や自己肯定感を高めさせる。</li> <li>・教職員や友人とのかかわり、読書や芸術鑑賞を通して幅広く柔軟な考え方、感性を身に付けさせる。</li> <li>・先人の生き方や社会事象に多く触れさせ大事と小事の区別を理解させる。</li> </ul>
規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の欲求よりルールを尊重することができる。</li> <li>・反社会的な行動を規制する法律の意義を理解できる。</li> </ul>
規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディベートにより校則の意義を理解させる。</li> <li>・法に触れる行為やその罰則、処遇について、外部講師による講話などにより生徒及び保護者へ周知を図る。</li> </ul>

《高等学校》

特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自我同一性を確立する時期に当たり、「自分とは何か」について認識できるようになる。</li> <li>・親からの情緒的な自立が図られるとともに、他者集団の中での自己の責任や役割を自覚し行動に反映するようになる。</li> <li>・自己の能力や適性を把握し、将来の職業を考え、その実現に向けた進路の決定が求められる。</li> </ul>	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者や社会とのかかわりの中で自己の資質・能力、可能性などへの理解を深めさせながら、人間としての望ましい在り方、生き方について考えさせる。</li> <li>・様々な具体的活動を通して社会の一員である自覚を深めさせるとともに、社会の中での自己を客観的に評価しようとする態度を身に付けさせながら、健全な価値観に基づいた自己の確立を援助する。</li> </ul>	
項目	発達課題	発達課題を達成するための具体的な活動例
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いを通じて、集団の問題解決に寄与できる。</li> <li>・様々な情報を取捨選択しながら活用することができる。</li> <li>・言葉により自己の考えを論理的に深めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文指導やディベートにより、相手の意見を尊重しながら自分の意見をまとめる能力を身に付けさせる。</li> <li>・事例を用いて情報が持つ功罪についての知識を深めさせながら、自己に有益な情報の収集、活用の能力を身に付けさせる。</li> <li>・3分間スピーチなどを継続的に実施し、自己の伝えたいことをまとめ、発表する能力を育成する。</li> </ul>
共感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手と自分の双方を尊重した行動がとれる。</li> <li>・異性との間に人格の尊重に基づく人間関係を形成することができる。</li> <li>・年少者や高齢者、障害を持つ人に適切な対応ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループによる共同作業などを通じて他者感覚や適切な距離感を育てる。</li> <li>・事件・事故等の被害者の心情について事例を用いて意見交換などをさせる。</li> <li>・男女混合のグループ活動を意図的に設定し、協調、協力の態度を身に付けさせる。</li> <li>・車椅子や目隠しによる生活体験を通じ、身体に障害を持つ人の気持ちを理解させる。</li> </ul>
想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や属する集団の行為の結果を論理的に考えることができる。</li> <li>・自分の将来（目標）を考え、そのために今すべきことを考え実行することができる。</li> <li>・人間の命の尊厳を知識的、感覚的に理解し行動に反映できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象事例を用いて原因と結果の関係やその過程について、「～かもしれない」という危機管理の視点から考えさせ話し合わせる。</li> <li>・将来の目標を明確化させるための情報提供や説明、相談活動を組織的、計画的に行う。</li> <li>・教科指導や特別活動を中心に命への理解と関心を深め、生命尊重の観点から自己の行動を考えさせる。</li> </ul>
適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会とのかかわりの中で自己理解を深めることができる。</li> <li>・集団や社会に積極的にかかわっていくことができる。</li> <li>・理想と現実のバランスを考えることができる。</li> <li>・物事の優先順位や価値の軽重について客観的に考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「他者から必要とされている」という感覚や存在感を実感できる集団活動や共同作業を意図的に設定する。</li> <li>・集団の中で自己の役割を果たさせることにより自己有用感を高めさせる。</li> <li>・職場体験や勤労体験を通して、生きるために必要なもの、すべきことを実感させる。</li> <li>・ガイダンスを充実させ、生徒自身や属する集団の行動目標や達成のための方法を理解させる。</li> </ul>
耐性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に目標を設定し、達成に向けて努力することができる。</li> <li>・相手の立場や感情を理解し、自分の行動を律することができる。</li> <li>・集団や組織の中での自分を自覚し行動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な活動に対して小さな目標設定を習慣化させ、主体的に取り組む姿勢を育てる。</li> <li>・努力の過程や成果を適切に評価することにより、意欲を育てる。</li> <li>・特別活動や部活動において、物事をスムーズに進めるために自分の欲求を抑えることを経験させる。</li> </ul>
規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法や社会的慣習の意義を理解した行動を主体的にとることができる。</li> <li>・社会的な存在としての自己を認識できる。</li> <li>・犯罪となる行為について法律にしたがって理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則を事例としたディベートなどにより、ルールを守ろうとする態度を身に付けさせる。</li> <li>・ロールプレイなどにより様々な行為を客観的に考えさせる場を設定する。</li> <li>・社会体験や奉仕活動、地域行事などに積極的に参加させ、多くの大人と接する機会を設ける。</li> <li>・法に触れる行為やその罰則、処遇について、外部講師による講話などにより生徒及び保護者への周知を図る。</li> </ul>

## ウ 発達課題の達成度の確認と指導・援助

- 児童生徒による自己理解、教員による児童生徒理解、具体的な指導・援助のためのチェックシート -

### (7) 発達課題の活用により児童生徒の自己理解を深める

#### 【シートA：小学校高学年児童、中・高等学校生徒用】

生徒自身による発達課題の達成度チェックシートをP.20以降に例示する。各学校の実態に応じて、内容を自校化するなどしながら、学級活動やホームルーム、進路指導の時間などでの活用が望まれる。

シートは児童生徒自身による自己理解を深めることを目的とするものとして、提出を予定しない形で作成した。その場合、自己チェックの結果や各生徒の考えた課題などについては、相談や面談の場面で生徒自身に語らせるようにしたい。

また、学校やクラスの実情により、児童生徒理解のための資料とする場合は、提出させるような使い方も考えられる。

### (イ) 発達課題の活用による学級などの集団及び個々の児童生徒理解

#### 【シートB：教員用】

発達課題を踏まえた指導・援助の方法として、P.23以下の表を例示する。身に付けさせたい発達課題として、本資料3-(1)-イ「発達課題と具体的な活動例」で明らかにした内容を記載してあるが、各学校の実態に応じて内容を変更するなど、自校化を図りながら活用することが望まれる。

各表は、学級や学年など集団の傾向を確認し指導・援助の在り方を検討することや、特に配慮を必要とする児童生徒などの個を対象とした使い方などを考えている。

#### 学級や学年、グループなど集団に着目した活用

- ・ 学年主任や学級担任、教科担任などにより学年や学級、特に配慮が必要なグループの傾向を多角的に評価し、集団に不足している発達課題の内容を明らかにする。
- ・ 表中の評価に基づき、「発達課題を達成するための具体的な活動と留意点」に記載した具体的活動などを参考にしながら、指導・援助の在り方や方法等について学年委員会や児童・生徒指導部会等で検討し、具体的な指導・援助を組織的に実践する。

#### 個に着目した活用

- ・ 特に配慮を必要とする児童生徒などについて、校内でかかわりを持つ教職員により多角的に評価し、身に付いていない発達課題の内容を明らかにする。
- ・ 表中の評価に基づき、「発達課題を達成するための具体的な活動と留意点」に記載した具体的活動などを参考にしながら、指導・援助の在り方や方法等について担任を中心としながら学年委員会や児童・生徒指導部会等で検討し、

具体的な指導・援助を組織的に実践する。

- ・発達課題に関する評価や身に付けさせたい具体的な内容、学校の指導・援助の方針、方法などについて、保護者に周知し、連携を図りながら指導・援助を進める。
- ・家庭における指導の在り方についても、具体的な方法について保護者との共通理解を深めるための資料として活用する。

#### (ウ) 発達課題の活用による指導・援助

##### 【シートC：教員用個票】

発達課題の達成度に着目した指導・援助の方法の一例として、P.29に示すシートCを作成した。例示として個人票としてあるが、シートB同様に学級や学年、児童生徒の友人関係によるグループなどに当てはめて活用することも考えられる。

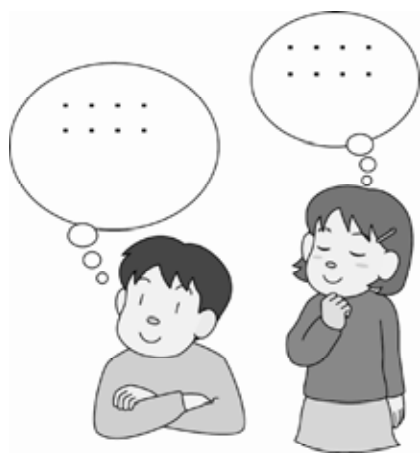
##### 個に着目した活用

- ・児童生徒にかかわる教員の多角的な視点により発達課題の達成度を評価し、未発達である資質や態度を明らかにする。
- ・学校の教育活動の中で児童生徒のために何ができるか、担任を中心としながら教科担当者や部活動顧問、児童・生徒指導部や学習指導部、特別活動部など必要な部と連携を図りながら検討し、指導・援助を進める。
- ・保護者にも周知を図り、学校における取組と家庭における指導の整合性を図るようにする。
- ・指導の成果等について記入し、個人票として次の年度への記録としたり、小・中、中・高間の情報連携に活用したりする。

##### 学級や学年、グループなど集団に着目した活用

- ・学年や学級、または児童生徒の友人関係によるグループなどの集団に欠けている資質や態度について、発達課題を活用しながら多角的な評価により明らかにする。
- ・学校の教育活動の中で該当する集団のために何ができるか、担任を中心としながら教科担当者や部活動顧問、児童・生徒指導部や学習指導部、特別活動部など適切な部と連携を図りながら検討し、指導・援助を進める。
- ・保護者にも周知を図り、学校における取組と家庭における指導の整合性を図るようにする。
- ・指導の成果等について記入し、次の年度への記録とする。

「シートA・B・C」については、栃木県教育委員会ホームページ「先生のためのページ - 児童・生徒指導 - 」からのダウンロードにより、各学校やクラスの実態に応じて自校化を図りながら活用願います。



## 自分はどんな人？

(人を傷つけたり人から傷つけられたりしないために)

みなさんは、もうすぐ中学生になります。みなさんにとっては、今、毎日が成長の連続です。これから、ほんとうに自分らしく成長し、体も心も健康で元気に生活していくために、人を傷つけたり、自分が傷つけられたりしてしまうことがないようにすることが大切です。下の表は、そうならないよう自分自身について考えるための質問です。

質問に答えながら、自分を見直し、「私の課題」について考えてみましょう。

年	組	氏名
---	---	----

できる	まあまあできる	あまりできない	できない ×
-----	---------	---------	-----------



### ことばによって気持ちや考えをまとめたり、伝えたりできること

- 友だちの意見に対する自分の考えを言葉で表すことができる。----- ( )
- 自分が怒(おこ)っていることを友だちに言葉で伝えられる。----- ( )
- 友だちに誘(さそ)われてもいやなことはいやと言える。----- ( )

### 自分以外の人の考えや気持ちを理解したり感じたりできること

- 言葉づかいや表情から相手の気持ちを考えることができる。----- ( )
- 友だちのよいところをほめることができる。----- ( )
- 家族や先生が自分を心配してくれることが理解できる。----- ( )

### 実際には起きていないことを考えたりできること

- 大人になったら何になりたいか、考えることができる。----- ( )
- 失敗したときなど、ちがうやりかたもあったことが考えられる。----- ( )
- 自分の命が遠い昔からずっとつながってきたものであることを考えることができる。----- ( )

### 自分のことが分かったり友だちとうまく付き合ったりできること

- 自分の長所、短所を理解して行動できる。----- ( )
- 人はいろいろな考えや気持ちを持っていることを理解できる。----- ( )
- 自分がしなければならないことを考えながら行動できる。----- ( )

### ねばりよく頑張(がんば)ることや我慢(がまん)ができること

- 自分だけでなくみんなのためにがんばることができる。----- ( )
- やらなければならないことは一人でも最後までやり通せる。----- ( )
- 失敗したときに「次はがんばろう」と考えることができる。----- ( )

### していいことと悪いことを考えて行動できること

- 学校や社会、家庭のきまりを守ることができる。----- ( )
- 下級生にきまりを守るよう教えることができる。----- ( )
- 周りの人の迷惑(めいわく)を考えて行動できる。----- ( )



や×がついたことを中心に、「私の課題」を考えてみよう。

私の課題 -----

-----

## 自分を見つめよう

(事件や事故の加害者にも被害者にもならないために)



学校内外の生活や友人関係の中で、人の体や心を傷つけたり自分の体や心を傷つけられたりすることは、自分らしく生きることを難しくし、本来あるべき調和のとれた発達を遂げる上でのマイナスとなることです。

次のチェックシートには、そうならないよう自分自身を見つめるための質問が設けてあります。質問に答えながら今の自分を理解し、事件や事故の被害者にも加害者にもならないよう「私の課題」について考えてみましょう。

年 組 氏名

できる     
  まあまあできる     
  あまりできない     
  できない  
×



### 自分の考えや気持ちを言葉によって整え適切に表現できること

- 言葉によって自分の気持ちや相手の感情を説明することができる。 ----- ( )
- 自分の考えと相手の考えを調整できる。 ----- ( )
- 嫌なことを相手の立場を考慮しながらきちんと断ることができる。 ----- ( )

### 自分と同じように他者の自由や権利、意志を尊重できること

- 他者への優しさや思いやりの気持ちを持つことができる。 ----- ( )
- 他者の心の痛みや苦しみが理解できる。 ----- ( )
- 考え方や感じ方が人により違うことが分かり友人の行為を尊重できる。 ----- ( )
- 親友を持ち、悩みを打ち明けることができる。 ----- ( )

### 成長する自分の姿をイメージできること

- 将来の自分の姿を考えることができる。 ----- ( )
- 自分や仲間の行為の結果について考えることができる。 ----- ( )
- 自分や仲間の行為の危険性に気づくことができる。 ----- ( )

### 実際の自分を受け入れながら集団の中でいきいきと活動できること

- 集団の目的を理解し自分の役割を果たすことができる。 ----- ( )
- 自分の長所や可能性を認識できる。 ----- ( )
- 公私の区別をわきまえて行動することができる。 ----- ( )

### ねばり強さや我慢、忍耐を伴って行動できること

- ものごとを最後までやり通すことができる。 ----- ( )
- 場面や状況により自分の気持ちや欲求をコントロールできる。 ----- ( )
- 学習や人間関係、進路などに関するストレスの処理ができる。 ----- ( )

### 法律や常識、きまりなどを理解し、その中で行動できること

- ルールを尊重した行動をとることができる。 ----- ( )
- 他者の迷惑を考えて行動することができる。 ----- ( )
- 法律の必要性を理解できる。 ----- ( )



や×がついたことを中心に、「私の課題」を考えてみよう。

私の課題 -----

-----



## 自己理解を深めよう

(事件や事故の加害者にも被害者にもならないために)



学校内外の生活や友人関係の中で、事件・事故の加害者にも被害者にもならないようにするという観点から今の自分について理解を深めることは、調和のとれた発達を支えるとともに、将来、社会で自立して生きていく力を養うためにとっても大切なことです。

次のチェックシートには、自己理解を深めるための質問が設けてあります。質問に答えながら「私の課題」について考えてみましょう。

年	組	氏名
---	---	----

できる	まあまあできる	あまりできない	できない x
-----	---------	---------	-----------



**言葉によって自己の思考や感情を整理し他者理解が図れること**

- 話し合いを通じて集団の問題を解決しようとするができる。 ----- ( )
- 様々な情報について、自分にとって有益か有害かという観点から考えることができる。 -- ( )
- 言葉により自分の考えを筋道立てて深めることができる。 ----- ( )

**自分と同じように他者の権利や自由、意志を尊重できること**

- 相手と自分の双方を尊重した行動がとれる。 ----- ( )
- 異性の人格を尊重した人間関係づくりができる。 ----- ( )
- 年少者や高齢者、障害を持つ人などにきちんとした対応ができる。 ----- ( )

**成長する自分の姿をイメージし、具体的な実践ができること**

- 自分の目標を考え、そのために今すべきことを実行することができる。 ----- ( )
- 自分までつながってきた「命」の連鎖を理解し、自分からつながっていく「命」があることを自覚できる。 ( )
- 行為の結果について、他者や自己の属する集団への影響を考えることができる。 ----- ( )

**自己理解を深めながら集団や社会の中でいきいきと生活できること**

- 社会とのかかわりの中で、自分の立場や役割が理解できる。 ----- ( )
- 集団や社会に積極的にかかわっていくことができる。 ----- ( )
- 理想と現実のバランスを考えることができる。 ----- ( )
- 物事の優先順位や価値の軽重について客観的に考えることができる。 ----- ( )

**ねばり強く取り組むことや自己と集団にかかわる価値の序列化ができること**

- 自分で目標を決め、達成に向けて努力することができる。 ----- ( )
- 相手の立場や感情を理解し、それに配慮した行動を取ることができる。 ----- ( )
- 組織の中の自分を自覚し行動することができる。 ----- ( )

**法律や社会規範にそった行動を自律的に選択できること**

- 法や社会的慣習を踏まえた行動を主体的にとることができる。 ----- ( )
- 集団の秩序を整えるためのルールの必要性を理解できる。 ----- ( )
- 他人の迷惑をわきまえた上で、自分の行動を選択できる。 ----- ( )



やxがついたことを中心に、「私の課題」を考えてみよう。

私の課題 -----

-----

発達課題を踏まえた児童理解（学級理解）と指導内容及び留意点（場に応じた適切な判断力を育てるために）

【シートB - 幼児期】（A：できる B：まあできる C：あまりできない D：できない）（学級等集団または園児名）

項目	身に付けさせたい発達課題	評価	発達課題を達成するための具体的な活動と留意点	指導の結果等
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「嬉しい」「悲しい」「～が欲しい」「～したい」など、基本的な感情や欲求を言葉で表すことができる。</li> <li>・場による定型的なあいさつができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や紙芝居、話を聞いたりする場を多く設定し、美しい言葉に多く触れさせる。</li> <li>・幼児の話したい気持ちを大切に、話を聞くためのゆったりとした時間と場面を設定する。</li> <li>・問いかけや言葉かけを多くして、受容的な態度で傾聴する機会を意図的に設ける。</li> <li>・感情を適切な言葉で表現できるよう「悲しいのね」「とても嬉しいのね」と感情の名付けを行う。</li> </ul>	
共感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人に甘えることができる。</li> <li>・身近な人の喜びや悲しみを感じることができる。</li> <li>・自然の美しさや生き物の動きに関心を持つことができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・触れ合いの時間、スキンシップの機会を多くする。</li> <li>・絵本や紙芝居、視聴覚教材などを通して、登場人物の気持ちを考えさせる。</li> <li>・人の話をしっかり聴く習慣を身に付けさせる。</li> <li>・友だちのことについて話しをさせる。</li> <li>・昆虫や小動物に触れる機会を多く設ける。</li> </ul>	
想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人やテレビキャラクターを模倣できる。</li> <li>・読み聞かせや物語に対して心象を持つことができる。</li> <li>・「命」や「死」が特別なものであることを感じることができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ごっこ遊び」で様々な人物（家族・テレビキャラクター等）を演じさせる。</li> <li>・素話や絵本の読み聞かせを通して持ったイメージをふくらませる。</li> <li>・音楽や絵画等芸術に接する機会を作る。</li> <li>・空想による「お話作り」をさせてみる。</li> <li>・生命が誕生する場面や近親者、昆虫、動物の死など、命にかかわる経験から遠ざけない。</li> </ul>	
適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと一緒に（に）いる、に遊ぶ）ことに喜びを感じられる。</li> <li>・体を使った遊びを楽しむことができる。</li> <li>・指示に従って、時間を守ることができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びや共同作業を通じて達成感や喜びを体感させる。</li> <li>・友だちとのいさかいは見守ることによって、他者とのつきあい方や距離感を学ばせる。</li> <li>・自然の中での遊びを通して五感を育てる機会を多く持つ。</li> <li>・自分でできることには、必要以上に声をかけたり、口出ししたりしない。</li> </ul>	
耐性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示に従って我慢することができる。</li> <li>・落ち着いて食事がとれる。</li> <li>・欲求が満たされない場面もあることが分かる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目に見える形で目標を示し、無理のない指示をする。</li> <li>・遊びの中で決まりを守る大切さを知らせていく。</li> <li>・我慢したこと、指示通りにできたことに対し誉めるだけでなく感謝の言葉もかける。</li> <li>・指導者が「待つ」ゆとりを持つ。</li> </ul>	
規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の物と人の物との区別ができる。</li> <li>・言葉による禁止の指示に従える。</li> <li>・順番を待つことができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々のマークを決め自他の物を分かりやすくする。</li> <li>・禁止する事項に対しては、大人が常に一貫した態度で徹底させる。</li> <li>・ルールのある遊びを通して大切さに気付かせる。</li> <li>・分かりやすい場面で（信号機やバスの乗り降り等）で、待つ訓練をさせる。</li> </ul>	

発達課題を踏まえた児童理解（学級理解）と指導内容及び留意点（場に応じた適切な判断力を育てるために）

【シートB - 小学校低学年】（A：できる B：まあできる C：あまりできない D：できない）（ - 学級等集団または児童名 - ）

項目	身に付けさせたい発達課題	評価	発達課題を達成するための具体的な活動と留意点	指導の結果等
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分からあいさつができる。</li> <li>言葉に対する関心を持つことができる。</li> <li>相手の言葉を理解しようと努めることができる。</li> <li>経験や想像の内容を分かりやすく話すことができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割り班によるあいさつ運動を継続的に実施する。</li> <li>読書を習慣化させ、「好きな言葉ノート」など言葉に多くかかわらせる。</li> <li>小集団活動などにより、考えを発言させる機会、発言を聴く機会を作る。</li> <li>自分の気持ちを短文に表す指導を行う。</li> </ul>	
共感	<ul style="list-style-type: none"> <li>動植物に優しい心で接することができる。</li> <li>友だちに思いやりを持って接することや先生の手伝いなどができる。</li> <li>友だちの長所に気付くことができる。</li> <li>高齢者と楽しく交流できる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科における動植物の飼育、栽培を通して生き物に対する優しい心を育てる。</li> <li>清掃や給食準備など協働作業を意図的に計画する。</li> <li>他者紹介などにより級友への関心を高めさせる。</li> <li>交流を通して、自分の存在が高齢者の元気づけなどに役立っていることに気付かせる。</li> </ul>	
想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者のよい行いを模倣できる。</li> <li>遊びのルールを考えられる。</li> <li>「命」はかけがえのないものであることが体験を通じて理解できる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>帰りの会で友だちのよいところを話し合う。</li> <li>よい行いを賞賛したり例示したりして、気づきを促し意欲付けをする。</li> <li>グループ遊びの中で誰もが楽しめるようなやり方を考えさせ、発表させる。</li> <li>生活科の観察・実験で昆虫や小動物を扱い、命は取り返しがつかないことを実感させる。</li> </ul>	
適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団の一員として楽しく行動できる。</li> <li>自由な時間と拘束される時間を区別できる。</li> <li>得意な学習活動を意識できる。</li> <li>授業に楽しく参加できる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ学習を多く取り入れ、協働による創作活動などを実施する。</li> <li>地域、育成会等の行事に参加させ、大人や年長者と交流する機会を作る。</li> <li>始業時刻を厳守させ授業中と休み時間の区別をきちんとつけさせる。</li> <li>学習活動への興味・関心を持続させる。</li> </ul>	
耐性	<ul style="list-style-type: none"> <li>してはいけないことを我慢できる。</li> <li>好きなことに長い時間取り組むことができる。</li> <li>人の話を静かに聞くことができる。</li> <li>食べ物の好き嫌いを克服しようと努力できる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>悪いことは悪いと身に付くまで繰り返し指導する。</li> <li>あまり苦勞せずにできる課題を繰り返し与え、努力と評価、賞賛を多く経験させる。</li> <li>嫌なことでも、最後までやり通す経験をさせる。</li> <li>一人で言う作業学習を取り入れ、次第にその作業時間を長くする。</li> <li>保護者と連絡を取りながら給食指導を行う。</li> </ul>	
規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>約束や時間を守ることができる。</li> <li>集団遊びの中でルールを守れる。</li> <li>歩行、自転車に関する交通ルールを理解できる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャイムや時計によりより、始業や終業の時刻に自分たちで気付くようにする。</li> <li>話し合いにより自分たちのルールを作らせる。</li> <li>ルールのある集団遊びをさせる。</li> <li>交通ルールを知識として計画的に教え、ロールプレイや視聴覚教材などにより安全と危険について学ばせる。</li> </ul>	

発達課題を踏まえた児童理解と指導内容及び具体的な留意点 (場に応じた適切な判断力を育てるために)

【シートB - 小学校中学年】(A:できる B:まあできる C:あまりできない D:できない) (-学級等集団または児童名 -)

項目	身に付けさせたい発達課題	評価	発達課題を達成するための具体的な活動と留意点	指導の結果等
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>感じたことや考えたことを、言葉で伝えることができる。</li> <li>場に応じた主体的なあいさつや適切な言葉づかいができる。</li> <li>嫌なことを嫌と伝えることができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何でも話せる雰囲気や学級経営に努めるとともに、小集団による話し合いの機会を多く作る。</li> <li>縦割り班活動などで、あいさつや言葉づかいの指導など下級生の面倒を主体的に見させる。</li> <li>ロールプレイにより自分の感情を伝える練習をさせる。</li> </ul>	
共感	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の悲しみや喜びを感じることができる。</li> <li>生き方のモデルを探ることができる。</li> <li>言葉や態度により相手が傷つくことがあることが分かる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>帰りの会でうれしかったこと、悲しかったことを発表させる。</li> <li>「伝記」、「体験記」などを読ませて先人の生き方について読後に話し合いをさせる。</li> <li>仲間のトラブルを全員で考えさせる。</li> <li>学級活動等でいじめや悪口について話し合い、他人の気持ちについて考えさせる。</li> </ul>	
想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者の迷惑を感じるができる。</li> <li>将来、何になりたいかを言うことができる。</li> <li>前の失敗を行動に生かすことができる。</li> <li>自分たちなりの遊びを考え出すことができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の言動を振り返るための時間を定期的に設ける。</li> <li>総合的な学習の時間などを通して、様々な職業や大人の生き方について理解を深めさせる。</li> <li>「1/2成人式」などで将来の夢を自由に考えさせる。</li> <li>地域の自然や文化財などに触れる機会を作る。</li> <li>社会の出来事等について話し合いの機会を作る。</li> <li>集団活動の時間に、活動のルールや方法を自分たちで主体的に工夫させる。</li> </ul>	
適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己と他者の区別ができる。</li> <li>意見の違う友人ともあそぶことができる。</li> <li>親や家庭から離れて、同性の友人集団で遊ぶことができる。</li> <li>授業に意欲的に取り組むことができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものの貸し借り上のルールを決めさせる。</li> <li>席替えやグループ編成の工夫などにより、多くの友人と接する機会を増やす。</li> <li>子どもたちの学校外での様子を把握することや地域子ども会活動を重視することを通して、地域つながりの集団活動を活発化させる。</li> <li>教科学習に関するつまずきの早期発見に努め、個別対応を充実させる。</li> <li>学習用具の準備や学習の目当ての理解などを確実に図りながら、授業にのぞむ態度を育てる。</li> </ul>	
耐性	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団行動の際に自己の欲求を抑制できる。</li> <li>学級内での役割や宿題などにねばり強く取り組むことができる。</li> <li>目標のために、したいことを我慢できる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「全体のことが先、自分のことは後」という意識付けを徹底する。</li> <li>係活動の内容を明確化し、工夫しながら楽しく活動できるように援助する。</li> <li>宿題を工夫し意欲が持続するようにする。</li> <li>我慢を要する課題を与え達成できたときには、適切に評価、賞賛する。</li> </ul>	
規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通ルールに従って行動できる。</li> <li>集団のルールを守ろうとすることができる。</li> <li>「したいこと」と「するべきこと」の違いが分かる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室などを通じて体験的な理解を深める。</li> <li>話し合いにより学級のルールを作らせる。</li> <li>事例やロールプレイを用いて様々な状況の中でのあるべき行動の優先順位について考えさせる。</li> </ul>	

発達課題を踏まえた児童理解と指導内容及び具体的な留意点 (場に応じた適切な判断力を育てるために)

【シートB - 小学校高学年】(A:できる B:まあできる C:あまりできない D:できない) (-学級等集団または児童名-)

項目	身に付けさせたい発達課題	評価	発達課題を達成するための具体的な活動と留意点	指導の結果等
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者の意見に対する自分の考えを言葉で表すことができる。</li> <li>相手の立場を配慮しながら、怒りや不満を伝えることができる。</li> <li>友だちに適切な声かけをすることができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループによる話し合いの機会を増やし、相手に理解されやすい伝え方の訓練をさせる。</li> <li>ディベートや自己主張訓練により、多角的な考え方や効果的な伝え方を身に付けさせる。</li> <li>語彙を豊かにするための読書活動を計画的に実施する。</li> </ul>	
共感	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の表情や言葉づかいから感情を推し量ることができる。</li> <li>他者の良いところを誉めることができる。</li> <li>親や教師などの願いを感じることができる。</li> <li>年少者に対して、思いやりを持って接することができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロールプレイにより相手の気持ちを考える訓練をする。</li> <li>作文学習などにより友人のよいところなどを表現させる。</li> <li>朝の会や学級活動で、教師や親の願いを紹介する。</li> <li>自分の名の由来を調べさせる。</li> <li>縦割り班活動の中での自分の行動を予め考えさせたり、振り返らせたりすることにより自己を客観化させる。</li> </ul>	
想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の夢や希望を持つことができる。</li> <li>自分の行動を振り返り改善すべきことを考えることができる。</li> <li>命の大切さ、尊さを自分のこととして理解できる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞や雑誌などから活躍している大人の情報を提供するようにする。</li> <li>新聞やテレビのニュース(事件)を題材に話し合いをさせ、加害者、被害者の心情を考えさせる。</li> <li>家族とのかかわりを意識させながら小学校入学から現在までの自分史を作成させる。</li> <li>自分までつながってきた「命」の連続性を考えさせる。</li> </ul>	
適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の長所、短所を理解できる。</li> <li>友人がいろいろな考えや感情を持っていることを理解できる。</li> <li>集団の中での自分の立場、役割を理解した行動が取れる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「私から見たA君」の作文や他者紹介などを実施し、他者や自己に対する理解を深めさせる。</li> <li>文学作品やニュースなどの受け取り方について話し合いをさせ、様々な感受性や考え方があることを理解させる。</li> <li>委員会活動や学級内の係活動への取組の自己評価などをさせる。</li> </ul>	
耐性	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団のために尽くすことができる。</li> <li>為すべきことは一人でも最後までやり通せる。</li> <li>目標のために、したくないことでも粘り強く取り組むことができる。</li> <li>上手くないことや失敗、できないことを受け止めることができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事で個の力に応じた役割を与える。</li> <li>一人一係制によりすべての児童に役割意識と責任感を持たせる。</li> <li>到達目標を細分化し、努力と達成感を数多く経験させる。</li> <li>誰にでも得意と不得意、できることとできないことがあることを体育的行事や芸術的行事を通じて理解させる。</li> </ul>	
規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>年少者にルールを守らせるなど、年長者の立場や責任を踏まえて行動できる。</li> <li>問題行動や非行に係る法律の存在を知ることができる。</li> <li>社会的な慣習に沿った行動が取れる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校班や縦割り班でのリーダーとしての行動についてモデルを示し実行させる。</li> <li>警察と連携し法律にかかわる知識を持たせる。</li> <li>事件・事故の報道等を題材とし、法律に触れる行為について話し合いをさせ、教員が適切な説明を加える。</li> </ul>	

発達課題を踏まえた児童理解と指導内容及び具体的な留意点 (場に応じた適切な判断力を育てるために)

【シートB - 中学校】(A:できる B:まあできる C:あまりできない D:できない) (-学級等集団または生徒名-)

項目	身に付けさせたい発達課題	評価	発達課題を達成するための具体的な活動と留意点	指導の結果等
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉によって自分の感情、相手の感情を説明することができる。</li> <li>自分の考えと相手の考えを調整できる。</li> <li>嫌なことを相手の立場を考慮しながらきちんと言断ることができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<p>次のテーマでロールプレイなどを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手が話しやすい聞き方</li> <li>意図が伝わりやすい話し方</li> <li>柔らかい断り方と断固とした断り方</li> </ul>	
共感	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者への優しさや思いやりの気持ちを持つことができる。</li> <li>他者の心の痛みや苦しみに寄り添うことができる。</li> <li>価値観の多様性に気付き友人の考えや行為を尊重できる。</li> <li>同性の親友を持ち、悩みや苦悩を打ち明けられることができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園や保育所、高齢者との交流活動を実施する。</li> <li>福祉体験(アイマスク、車椅子、点字・手話等)を実施する。</li> <li>道徳資料やビデオ、文学作品等によって様々な心情や精一杯生きることのすばらしさに触れさせる。</li> <li>同じテーマによる意見発表、ディベートなどを実施し、自己と他者の考え方や感じ方の違い、様々な悩みがあることに気付かせる。</li> </ul>	
想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の自己像について考えることができる。</li> <li>自分や仲間の行為の結果を予想しようとすることができる。</li> <li>危険な状況の把握や事態の展開を予想することができる。</li> <li>いじめや暴力行為の被害者の気持ちを考えることができる。</li> <li>命の連鎖を理解し、自分からつながっていく命があることを自覚できる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「高校生になったら」や「10年後の自分」などのテーマで作文を書かせ将来を意識させる。</li> <li>職場体験プログラムを実施し、体験の中から自分の将来について考えさせる。</li> <li>事件・事故の新聞記事や事例に数多く触れさせ、原因と結果について検証していく中で危険に対する知識や推量する力を身に付けさせる。</li> <li>事例を通じて同世代の被害者の心情について、「自分だったら」「親友のA君だったら」という視点で考えさせる。</li> <li>保健体育や道徳、特別活動などを通して、「性」や「生命」に関する理解を深めさせ、自分の命、他者の命に対する畏敬の念を育てる。</li> </ul>	
適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団の目的に沿って自己の役割を果たすことができる。</li> <li>自分のよさや可能性を認識できる。</li> <li>場面による公私の区別を踏まえた行動をとることができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団と自己のかかわり、集団の中での自己の役割や立場について作文を通して客観視させる。</li> <li>活躍が実感できる場を意図的に設定する。</li> <li>学級活動、学年・学校行事を生徒主体で進めることにより当事者意識を持たせていく。</li> <li>活動の内容によりリーダーとメンバーをバランスよく経験させる。</li> </ul>	
耐性	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものごとを最後までやり通すことができる。</li> <li>場面や状況に応じて自分の気持ちや欲求をコントロールできる。</li> <li>学習や人間関係、進路に関するストレスの処理ができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動や係活動、部活動や奉仕活動などにより小さなストレスを乗り越える経験をさせ、自信や自己肯定感を高めさせる。</li> <li>教職員や友人とのかかわり、読書や芸術鑑賞を通して幅広く柔軟な考え方や感性を身に付けさせる。</li> <li>先人の生き方や社会事象に多く触れさせ大事と小事の区別を理解させる。</li> </ul>	
規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の欲求よりルールを尊重することができる。</li> <li>反社会的な行動を規制する法律の意義を理解できる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディベートにより校則の意義を理解させる。</li> <li>法に触れる行為やその罰則、処遇について、外部講師による講話などにより生徒及び保護者へ周知を図る。</li> </ul>	

発達課題を踏まえた児童理解と指導内容及び具体的な留意点 (場に応じた適切な判断力を育てるために)

【シートB - 高等学校】(A:できる B:まあできる C:あまりできない D:できない) (-学級等集団または生徒名-)

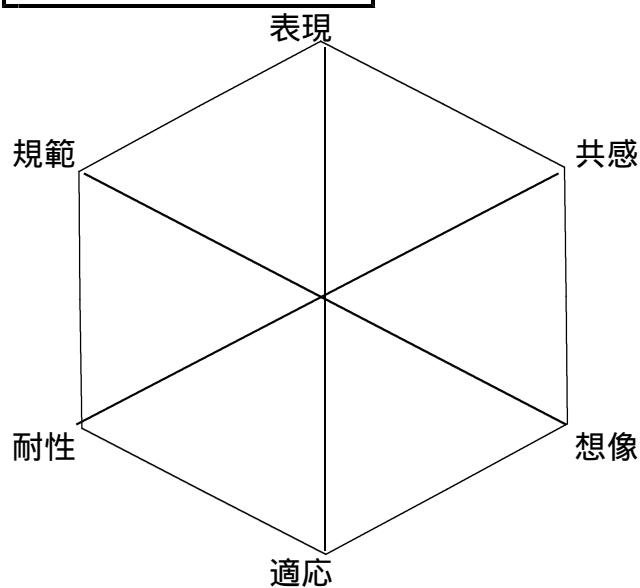
項目	身に付けさせたい発達課題	評価	発達課題を達成するための具体的な活動と留意点	指導の結果等
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いを通じて、集団の問題解決に寄与できる。</li> <li>様々な情報を取捨選択しながら活用することができる。</li> <li>言葉により自己の考えを論理的に深めることができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小論文指導やディベートにより、相手の意見を尊重しながら自分の意見をまとめる能力を身に付けさせる。</li> <li>事例を用いて情報が持つ功罪についての知識を深めさせながら、自己に有益な情報の収集、活用を身に付けさせる。</li> <li>3分間スピーチなどを継続的に実施し、自己の伝えたいことをまとめ、発表する能力を育成する。</li> </ul>	
共感	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手と自分の双方を尊重した行動がとれる。</li> <li>異性との間に人格の尊重に基づく人間関係を形成することができる。</li> <li>年少者や高齢者、障害を持つ人に適切な対応ができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループによる共同作業などを通じて他者感覚や適切な距離感を育てる。</li> <li>事件・事故等の被害者の心情について事例を用いて意見交換などをさせる。</li> <li>男女混合のグループ活動などを意図的に設定し協調、協力の態度を身に付けさせる。</li> <li>車椅子や目隠しによる生活体験を通じ、身体に障害を持つ人の気持ちを理解させる。</li> </ul>	
想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や属する集団の行為の結果を論理的に考えることができる。</li> <li>自分の将来(目標)を考え、そのために今すべきことを考え実行することができる。</li> <li>人間の命の尊厳を知識的、感覚的理解し、行動に反映できる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事件事例を用いて原因と結果の関係やその過程について、「～かもしれない」という危機管理の視点から考えさせ話し合わせる。</li> <li>将来の目標を明確化させるための情報提供や説明、相談活動を組織的、計画的に行う。</li> <li>教科指導や特別活動を中心に命への理解と関心を深め、生命尊重の観点から自己の行動を考えさせる。</li> </ul>	
適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会とのかかわりの中で自己理解を深めることができる。</li> <li>集団や社会に積極的にかかわっていくことができる。</li> <li>理想と現実のバランスを考えることができる。</li> <li>物事の優先順位や価値の軽重について客観的に考えることができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「他者から必要とされている」という感覚や存在感を実感できる集団活動や共同作業を意図的に設定する。</li> <li>集団の中で自己の役割を果たさせることにより自己有用感を高めさせる。</li> <li>職場体験や勤労体験を通して、生きるために必要なもの、すべきことを実感させる。</li> <li>ガイダンスを充実させ、生徒自身や属する集団の行動目標や達成のための方法を理解させる。</li> </ul>	
耐性	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に目標を設定し、達成に向けて努力することができる。</li> <li>相手の立場や感情を理解し、自分の行動を律することができる。</li> <li>集団や組織の中の自分を自覚し行動することができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な活動に対して小さな目標設定を習慣化させ、主体的に取り組む姿勢を育てる。</li> <li>努力の過程や成果を適切に評価することにより、意欲を育てる。</li> <li>特別活動や部活動において、物事がスムーズに進めるために自分の欲求を抑えることを経験させる。</li> </ul>	
規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>法や社会的慣習の意義を理解した行動を主体的にとることができる。</li> <li>社会的な存在としての自己を認識できる。</li> <li>犯罪となる行為について法律にしたがって理解することができる。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校則を事例としたディベートなどにより、ルールを守るうとする態度を身に付けさせる。</li> <li>ロールプレイなどにより様々な行為を客観的に考えさせる場を設定する。</li> <li>社会体験や奉仕活動、地域行事などに積極的に参加させ、多くの大人と接する機会を設ける。</li> <li>法に触れる行為やその罰則、処遇について、外部講師による講話などにより生徒及び保護者への周知を図る。</li> </ul>	

【 シートBの活用例】

教師用：児童生徒個人票

6年1組 氏名 栃木 太郎

例：小学校高学年（ ）は総合評価



項目	発 達 課 題	評価
表 現 (A)	・意見の表明	A
	・怒り、不満の表現	B
	・周囲への声かけ	A
共 感 (D)	・他者の感情理解	C
	・他者の称賛	C
	・親、教師の願いの理解	D
	・年少者への思いやり	D
想 像 (B)	・将来の夢、希望	B
	・行動の振り返り	B
	・命の連続性の実感的理解	C
適 応 (B)	・長所、短所の自己理解	B
	・友人の多様性の理解	B
	・自己の責任の自覚	C
耐 性 (C)	・集団への寄与	C
	・行動のねばり強さ	B
	・失敗の謙虚な受け止め	C
	・嫌いなものへの努力	C
規 範 (D)	・年長者としての自覚	B
	・法律的な善悪の理解	D
	・社会的な慣習の体得	D

特 徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰とでも気持ちよくあいさつを交わすことができる。また、自分の意見をきちんと表明することができる。</li> <li>・悪気はないが規範意識が低く、学級のきまりや授業開始時間が守れずいいわけが多い。</li> <li>・明るく陽気でありリーダー性にも富むが、周囲の気持ちや迷惑に無頓着なところが気がりである。</li> </ul>
指 導 ・ 援 助	<p><u>D = [共感][規範]</u>      <u>C = [耐性]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の名前の由来について、保護者に訊ねさせ作文を提出させる。</li> <li>・個人面談を実施し、新聞記事の事件について被害者やその家族の気持ちを一緒に考える。</li> <li>・学級内での役割について説明し理解させ、実行できるよう援助しながら実行できたときには称賛する。</li> </ul>
指 導 結 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一学期後半からチャイム着席は守れるようになったが、係活動については不十分である。( 月 日)</li> <li>・友人関係の中で、他を思いやる言動が見られるようになった。( 月 日)</li> <li>・</li> </ul>



(2) 学校から家庭への働きかけの観点とねらい

学校と家庭、教職員と保護者は、幼児・児童生徒がいきいきと生活しながら調和のとれた発達を遂げるために、様々なところから連携、協力を図りながら子どもの成長を支えていかなければならない、いわば「チームメイト」と言える。

価値観の多様化という言葉で括られる保護者の変容に対しても、学校から積極的な働きかけを行い、幼児・児童生徒の将来の姿を共に思い描くことを通して現在のあるべき姿と一緒に考えることにより、目的意識の共有化を図ることが大切である。

そのような観点から、前述した6つのキーワードによる発達課題を達成するために必要となる具体的な働きかけの例を下記に示す。

幼児・児童生徒を集団としてとらえ全体会や学級・クラス懇談での説明、学校、学級・クラス便りなどを一層充実させることや、さらに、個別的な理解を踏まえて家庭連絡や二者面談等を実施することなどにより、家庭において身に付けさせたい態度や育てたい資質・能力を明確化し連携を図っていくことが重要である。

【幼稚園・保育所】

保護者への働きかけの観点	幼児の発達に期待される効果
<p>【表 現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本等に接する（親、兄弟による読み聞かせ等）時間</li> <li>・家庭におけるあいさつ</li> <li>・一日の出来事を話させる時間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現することや聞くこと、言語に対する興味、関心の喚起</li> <li>・他者に対して言葉を発するトレーニング</li> <li>・表現の順序性や内容を整理する力の育成</li> </ul>
<p>【共 感】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スキンシップによる愛情と受容の大切さ・時間の共有</li> <li>・ゆったりした食事の時間</li> <li>・テレビ視聴時間の適切な設定と親や兄弟と直接かかわる時間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心の安定と自尊感情の基盤づくり</li> <li>・「食」の大切さと家族間の共感力の体得</li> <li>・家族の結びつき、相互理解の基盤づくり</li> </ul>
<p>【想 像】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や親類の誕生、死などにかかわる経験から遠ざけないことや昆虫、小動物と直接ふれあう体験</li> <li>・絵本等に接する（親、兄弟による読み聞かせ等）時間</li> <li>・五感を使った遊び</li> <li>・教え過ぎないことの大切さ</li> <li>・里帰りや墓参りの意義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「命」に対する感動や畏敬の体感</li> <li>・「生」「死」にかかわる感覚的な理解</li> <li>・感動する力や空想する力、好奇心の育成</li> <li>・身体感覚を伴った経験により安全や危険に対する感覚を身に付けさせること</li> <li>・達成感や失敗の感覚を体験の中から身に付けさせること</li> <li>・命への関心を高めること</li> </ul>
<p>【適 応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や地域におけるあいさつ</li> <li>・父親との会話や遊び</li> <li>・親類や親の友人、近所の人などいろいろな大人と接する機会の意図的な設定</li> <li>・起床・就寝、食事の時間など規則正しい生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会性や他者感覚の育成</li> <li>・母親との補完による身に付けるものの多様化</li> <li>・人とかかわる力、社会性の基盤づくり</li> <li>・健康や体力、基本的な生活習慣の育成</li> </ul>
<p>【耐 性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものすることを静かに見守る姿勢</li> <li>・小さな失敗体験による肉体的な痛みや思い通りにいかない状況の経験</li> <li>・同世代の友だちと遊ぶ経験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で考えようとする態度の基盤づくり</li> <li>・他者への思いやりやねばり強く頑張る態度の基盤づくり</li> <li>・順番を守ることなど我慢する態度の育成</li> </ul>
<p>【規 範】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よいこと、悪いことの繰り返し指導</li> <li>・家庭内のルールや家事の役割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価値観、規範意識の基盤づくり</li> <li>・規範意識や責任感の基盤づくり</li> </ul>

【小学校】

保護者への働きかけの観点	児童の発達に期待される効果
<b>【表 現】</b>	
・読書の奨励（低学年は読み聞かせ）	→ ・言語感覚や問題を把握する力の育成
・したいこと、したくないことを言葉で説明させること	→ ・自分の考えを整理し相手にきちんと伝える態度の育成
・あいさつ（地域）	→ ・他者にかかわる態度、社会性の基盤づくり
・一日の出来事を話させる時間	→ ・表現の順序性や内容を整理する力の育成
<b>【共 感】</b>	
・時間の共有と温かい家庭づくり	→ ・心の安定と自尊感情
・小さな失敗による心や体の痛みの体験	→ ・他者への思いやり
・読書の奨励（親子読書）	→ ・時間や話題の共有
・ボランティア活動、社会体験活動などへの積極的な参加	→ ・他者感覚の育成と自己肯定感
・部活動などへの参加	→ ・仲間と様々な感情を共有する体験
・自然や芸術作品など本物に多くふれさせる	→ ・感動する心や知的な好奇心の育成
<b>【想 像】</b>	
・親類や家族の誕生、死などにかかわる経験から遠ざけないことや昆虫や小動物と直接ふれあう体験	→ ・「命」への感動や畏敬の体感 ・「生きていること」「死ぬこと」の意味の理解
・読書の奨励	→ ・場面や人間関係、心の動きなどの疑似体験
・里帰りや墓参りの意義	→ ・自己の存在や命の連続性への関心の高揚
・祖父母とのかかわりや先祖について知ることの大切さ	→ ・自己の存在や命の連続性への関心の高揚
・事件や事故のニュースによる話し合い	→ ・危険に対する感性の高揚
<b>【適 応】</b>	
・愛情と受容の大切さ - 時間の共有 -	→ ・心の安定と自尊感情の基盤づくり
・子ども同士での集団での遊び	→ ・自立、社会性、適応力の基盤づくり
・地域育成会活動への参加	→ ・社会性や団結心の養成
・あいさつ（家庭）	→ ・家族間の人間関係づくり
・朝食の摂取	→ ・健康に対する意識の基盤づくり
・起床・就寝、食事など規則正しい生活の習慣化	→ ・自己管理能力の育成
・親類や親の友人、近所の人などいろいろな大人と接する機会の意図的な設定	→ ・人とかかわる力、社会性の育成
・インターネット等の正しい使い方	→ ・情報社会への適応の基盤づくり
<b>【耐 性】</b>	
・上手いできないことや不足の経験	→ ・工夫することやねばり強さの基盤づくり
・小遣いの与え方と使い方	→ ・金銭への適切な価値観と我慢の経験
・テレビゲームによる遊び時間の約束	→ ・自律的な生活習慣の意識付け
・我慢の体験の意図的な設定	→ ・心の強さづくり
<b>【規 範】</b>	
・家事への参加と役割の明確化	→ ・ねばり強さや責任感の育成
・家庭の決まりの遵守	→ ・ルールが存在や大切さの意識化
・テレビや遊び時間の設定と遵守	→ ・きまりを守ること、生活習慣の基盤
・帰宅時刻の遵守	→ ・約束、ルールを守る態度の育成
・「ダメなことはダメ」の繰り返し指導	→ ・善悪の判断力、自制心の基盤づくり

【中学校】

保護者への働きかけの観点	生徒の発達に期待される効果
<p><b>【表 現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校での出来事を聞く時間 → 表現の順序性や内容を整理する力の育成</li> <li>・ 家族での読書や日記 → 自己の感情や考えを言葉によって整理する力と語彙力の育成</li> </ul>	
<p><b>【共 感】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間の共有と温かい家庭づくり → 心の安定、自尊感情</li> <li>・ 結果より過程への目配り → 認められる経験、自己肯定感の高揚</li> <li>・ 子どもへの愛情と見守り、適切な指導 → 親子関係の再確認と</li> <li>・ 感情の受容と行動のけじめ → 善悪の理解、短絡的・直情的な行動の抑制</li> <li>・ 子どもの意見への寛容な態度 → 共感する力の育成</li> <li>・ 自然や芸術作品など本物に多くふれさせる → 感動する心や知的な好奇心の育成</li> <li>・ 家庭内での役割の明確化と実践 → 家族の一員としての意識付け</li> <li>・ 学校における生活状況など各種情報の提供 → 親子による話し合いの時間の契機の提供 家庭への提供</li> </ul>	
<p><b>【想 像】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夢や希望、進路についての受容的な話し合い → 意欲の喚起と自立心の育成</li> <li>・ 報道される少年事件や事故を活用した話し合い → 自己の安全や被害者の気持ちなどについて考えさせることや行為の結果の理解</li> <li>・ 祖父母とのかかわりや先祖について知ることの大切さ → 自己存在感の確認と命の連続性の理解</li> <li>・ 伝記、偉人伝などの読書のすすめ → 人生や生き方に対する積極的な態度の育成</li> </ul>	
<p><b>【適 応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域行事に参加するなどによる地域社会への積極的なかかわり → 社会性の育成や集団の中の自己の自覚</li> <li>・ 持ち物や友人関係への目配り → 問題行動の早期発見による健全な発達支援</li> <li>・ 起床・就寝、食事など規則正しい生活の習慣化 → 自己管理や自律的な生活能力の育成</li> <li>・ インターネット等（パソコン、携帯電話）の正しい使い方 → 情報の持つメリット・デメリットに対する知識と態度の育成</li> </ul>	
<p><b>【耐 性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 失敗や挫折の経験の見守りと援助 → ねばり強さや自ら工夫する態度の育成</li> <li>・ 家庭におけるルールの設定と遵守 → 義務と自由の区別</li> <li>・ 小遣いの自己管理 → 金銭感覚の育成と自己抑制の学び</li> <li>・ 家庭における小さな目標づくりと実践 → 主体性や継続性の体得</li> </ul>	
<p><b>【規 範】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帰宅時刻など家庭の決まりの遵守 → ルールに対する態度や責任感の育成</li> <li>・ 法的な視点からの善悪の話し合い → 集団や社会の中での自己抑制の態度の育成</li> <li>・ 校則など学校のきまりに対する保護者自身の理解の推進 → 学校と家庭の協力連携</li> <li>・ 自由と我が儘、義務と権利についての話し合い → 社会的存在である自己についての意識の高揚</li> </ul>	

【高等学校】

保護者への働きかけの観点	生徒の発達に期待される効果
<p>【表 現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内や地域の人へのあいさつの重要性 →</li> <li>・報道される社会問題などに関する親子での意見交換 →</li> </ul>	
<p>【共 感】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間の共有と温かい家庭づくり →</li> <li>・学校における生活状況など各種情報の家庭への提供 →</li> <li>・感情の受容と行動のけじめ →</li> <li>・家庭内での役割の明確化と実践 →</li> </ul>	
<p>【想 像】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事件や事故の報道を活用した家庭での話し合いの重要性 →</li> <li>・職業選択に向けた家庭での話し合い →</li> <li>・将来について自ら考えさせることと見守る姿勢の大切さ →</li> <li>・労働体験 →</li> </ul>	
<p>【適 応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち物や友人関係への目配り →</li> <li>・問題行動等への毅然とした対応 →</li> <li>・地域行事やボランティア活動への参加 →</li> <li>・容儀や礼儀の指導 →</li> <li>・理想と現実に対するアドバイス →</li> <li>・インターネット等（パソコン、携帯電話）の正しい使い方 →</li> </ul>	
<p>【耐 性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭における小さな目標づくりと実践 →</li> <li>・小遣い等金銭の自己管理 →</li> <li>・失敗や挫折の経験の見守りと援助 →</li> <li>・家庭におけるルールの設定と遵守 →</li> </ul>	
<p>【規 範】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由と我が儘、義務と権利に関する話し合い →</li> <li>・社会問題に関する話し合い →</li> <li>・地域安全活動等ボランティアへの参加 →</li> <li>・校則など学校のきまりや学校の指導方針に対する保護者自身の理解の推進 →</li> <li>・加害事故や犯罪に係る賠償責任や法的な処罰に関する話し合い →</li> </ul>	

4 平成16年度 児童・生徒指導推進委員会委員（五十音順）

	氏 名	職 名 等	備考
1	伊澤 成男	総合教育センター教育相談部副主幹	
2	大塩 昇	今市市立豊岡中学校特別活動主任	
3	大塚 光一	市貝町立市貝小学校教務主任	
4	金子 稔	宇都宮家庭裁判所首席家庭裁判所調査官	
5	橘川 真彦	宇都宮大学教授	委員長
6	黒崎 治子	栃木県保育協議会理事 河内町立なかよし保育園長	
7	高橋 明	県立高根沢商業高等学校生徒指導主事	
8	手塚 克則	栃木県高等学校PTA連合会副会長	
9	中村 哲也	栃木県警察本部生活安全部少年課課長補佐	
10	藤田 猛	栃木県PTA連合会会長	職務代理
11	古沢 雅世	小山市立小山第三中学校養護教諭	
12	前原 美彦	県立太平少年自然の家副主幹兼指導課長	
13	益子 照雄	栃木県中央児童相談所係長	
14	若林 悦男	栃木県子ども会連合会副会長	

## 【これまでの主な指導資料等】

平成6年度

- ・「児童生徒の健全育成を目指して(13) - 登校拒否の解決に向けて - 」 義務教育課

平成7年度

- ・「いじめへの対応」 栃木県教育委員会

平成9年度

- ・「児童生徒の健全育成を目指して(16) - 児童生徒指導に関する一問一答 - 」 義務教育課

平成11年度

- ・「学級・ホームルーム担任のための教育相談第11集 - 気になる子の理解と対応」  
総合教育センター障害児教育・相談部

- ・「いじめの予防と解決への組織的対応」 総合教育センター

平成12年度

- ・「児童生徒指導の指針 - 心豊かな栃木の子どもを育てるために - 」 児童生徒指導緊急対策室

- ・「不登校の理解と対応」 総合教育センター障害児教育・相談部

- ・「『いじめ』の解決・再発防止」 総合教育センター

- ・「いじめの理解と対応」 総合教育センター

平成13年度

- ・「具体的な取組事例 - 小学校児童の中学校進学に当たっての不安解消のために - 」  
児童生徒指導推進室

- ・「児童・生徒指導に関する危機管理マニュアル作成資料」 児童生徒指導推進室

- ・「平成14年度幼稚園・小学校・中学校 指導の指針」 義務教育課

- ・「平成14年度県立学校における指導の指針」 高校教育課

- ・「児童生徒の健全育成を目指して(19) - 豊かな人間関係づくりのための10の方法 - 」  
義務教育課

- ・シリーズ子ども理解と学級経営 「いじめや不登校を防ぐために」  
子ども一人一人を十分に理解しよう - 発達学級地図を用いて -  
総合教育センター教育相談部

- ・シリーズ子ども理解と学級経営 「いじめや不登校を防ぐために」  
- 簡単にできる「学級事例研究」の進め方 - 総合教育センター教育相談部

- ・「新年度のスタートは子どもにとって不安がいっぱい」 総合教育センター教育相談部

- ・「不登校児童生徒の援助・指導の在り方」に関する調査研究(中間まとめ)  
総合教育センター教育相談部

平成14年度

- ・「不登校の解消に向けた方策について」  
(平成14年度児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ) 児童生徒指導推進室

- ・「不登校対策特別研修会資料」 児童生徒指導推進室

- ・「平成14年度幼稚園・小学校・中学校 指導の指針」 義務教育課

- ・「平成14年度県立学校における指導の指針」 高校教育課

平成15年度

- ・「暴力行為を予防するための方策について」  
(平成15年度児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ) 児童生徒指導推進室

- ・「児童・生徒指導資料 - 児童生徒指導の充実を目指して - 」 児童生徒指導推進室

- ・「平成15年度幼稚園・小学校・中学校 指導の指針」 義務教育課

- ・「平成15年度県立学校における指導の指針」 高校教育課

平成16年度児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ  
「場に応じた適切な判断力を育てるための指導・援助の在り方」  
- 加害者にも被害者にもさせないために -

平成16年10月

発行 栃木県教育委員会事務局 学校教育課児童生徒指導推進室

〒320-8501 栃木県宇都宮市埜田1-1-20

☎ 028-623-3359

<http://www.pref.tochigi.jp/index.html>

(教育委員会 - 「先生のためのページ」)